

## 特別展「奇なるものへの挑戦 明治大正／異端の科学」について 参考文献リストと年表

The Introduction of Exhibition "Challenging heretic scientists in Meiji and Taisho era"  
: A List of References

南本有紀<sup>1</sup>

Yuki Minamimoto<sup>1</sup>

<sup>1</sup>岐阜県博物館

### 要 旨

平成26年度特別展「奇なるものへの挑戦 明治大正／異端の科学」(2014年7月4日～8月31日)について、展覧会の概要と企画準備にあたって参照した文献および新聞記事リスト、それらによって作成した年表を示す。

近現代のオカルトブームという社会現象を取り上げた当該展では、さまざまなトピックを可能な限り幅広く取り上げ、幸い、多くの反響を得たが、広範なテーマを盛り込んだため、展覧会場のスペースや図録の紙幅など、物理的制約で割愛せざるを得なかったトピックも少なくなかった。本稿は、そのうち照会も多かった参考文献リストと年表をここに掲載し、大方の便宜に資することを意図するものである。

#### 1 はじめに

平成26年度夏期の岐阜県博物館特別展「奇なるものへの挑戦 明治大正／異端の科学」(2014年7月4日～8月31日)では、近現代のオカルトブームを取り上げた。2000年代以前には際物扱いだった妖怪関係の展示は、近年、博物館では夏の定番メニューとなっており、ここ数年では、美術館でも大規模展覧会が開催され、怪奇現象の科学的仕組みを読み解く科学館の関連展示も散見されるようになった。とはいえ、これらの対象は近世以前に限定され、明治以降の動向が示されることはほとんどない。当館特別展は、その意味で、ほぼ初の試みとなった。

このため、開場前から一部で評判となり、会期中もブログ・ツイッター等で数多く取り上げられ、当該分野への関心の深さと、情報への飢餓感が印象に残った。この反響の大きさは、担当者としては非常にうれしかった。というのも、前述のように前例の類似展がほぼ皆無のため、また、博物館展示としては王道とはいえないがたいテーマのため、開催準備に非常に苦戦したからである。中でも、資料の所在情報等の、具体的な展示を組み立てるための最初の情報収集にはてこずらされた。開場後、図録の売り上げが好調だったのも、類似企画が見当たらないため、珍しい情報ツールとしての受容だったと思われる。図録

には、簡単な文献リストと年表を掲げたが、一般啓蒙用の読み物という刊行物の性質上、また物理的制約により多くを割愛せざるを得なかった。

ここに、展覧会企画準備時に参照した参考文献と、それらによって作成した年表を掲示し、大方の関心に応えたいと思う。

#### 2 展覧会の内容

当該展はひとことで概括するのが難しいため、チラシには下記のようなキーワードを多数掲載し、全体の雰囲気を感じ取ってもらうことを意図した。

新しき科学 怪談 神降ろし 観念力 感応術 気合術 記憶術 危険術 狐憑き 口裂け女 健康法 交霊・降霊 こっくりさん・テーブルターニング 催眠術 自動書記 修養 神経衰弱・神経病・ヒステリー 神智学 神通力 神秘主義 心理学 心霊学 静坐法 精神 精神 医学 精神療法 生命主義 千里眼・天眼通 超科学 ツチノコ 電気 念写 脳髄 煩悶青年・煩悶の時 変態心理 見 世物小屋・お化け屋敷 メスメリズム・動物磁気 憂鬱 立身出世 霊界通信 レイキ 霊子 霊術 霊動 (50音順)
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

企画者としては、「オカルト現象」ではなく「オカルトブーム」という近現代の社会現象・時代風潮を取り上げることを目的とした。そもそもの発想は、当該分野の歴史に岐阜県出身者・関係者が多くが登場することによ

る。岐阜県つながりだけでこのテーマにおける近現代史をひと通りたどることができるのである。表を参照いただきたい。

表1 展示構成

コーナー	テーマ		
1 奇なるものへの好奇心	1-1 こっくりさん	神智学,スピリチュアリズム	
	1-2 「妖怪博士」井上円了	「妖怪学」	
2 催眠術ブーム	2-1 催眠球	精神研究会, 総心理学会	
	2-2 ハウツー本	メスマリズム	
3 東京帝国大学と心理学	3-1 心理学の黎明	実験心理学, 「変態心理学」	
	3-2 心理学者・福来友吉	柳宗悦の卒業論文	
4 千里眼ブーム	4-1 千里眼		
	4-2 千里眼事件	千里眼実験	
5 九州帝国大学と精神医学	5-1 九州帝国大学の精神病棟	精神医学, コンボタネ	
	5-2 「ドグラ・マグラ」草稿	探偵小説	
6 中村古峯と「変態心理」		森田草平	
7 その後の福来博士	7-1 変態心理研究の大家	心靈学	
	7-2 教育者と心靈研究者	東北心靈科学研究会	
	7-3 野原櫻州の念写実験		
8 霊術ブーム	8-1 気合術（危険術）	修験と治療	
	8-2 元祖・桑原俊郎	霊術	
		松橋吉之助	
	8-3 カリスマ・田中守平		
		久米民十郎	佐藤久二, 霊媒画
		片桐龍子	
	中国の催眠術ブーム		
	8-4 その他の霊術家（県内）	西邑雲光, 星天学	
	8-5 臼井甕男の霊気		
	8-6 日本心靈学会	渡邊藤交	
9 健康法	9-1 岡田式静坐法	岡田虎二郎	
	9-2 その他の健康法	二木式・藤田式・川合式等	
10 熊崎健翁の姓名学		五聖閣, >心道	
読書コーナー			
11 奇なるものの行方	11-1 口裂け女		
	11-2 つちのこ		
12 奇なるものを楽しむ	12-1 見世物小屋	安田興行	
	12-2 お化け屋敷		
体験コーナー (サポーター活動)	パネル（動物磁気とは 心理学とは 心理学の出現） 「生首」再現 「明治のこっくりさん」再現 「霊子板」レプリカ 「複式催眠球」レプリカ（岐阜工業高校自動車部）		
その他（サポーター活動）	オリジナルキャラクター 缶バッジプレゼント		
PR 映像番組 ※割愛したテーマ	動画「催眠球」「念写」（岐阜工業高校報道放送部）怪談ブーム, 神経衰弱・ヒステリー, 心靈写真, 近代仏教, 報徳思想, 学校の怪談, 香具師		

また、準備期間中に『ドグラ・マグラ』草稿の発見があり<sup>1</sup>、それが目玉展示の実現につながったり、会期前後を通じて世間を騒がせた STAP 細胞事件など、展覧会の内容にリンクする社会的関心の高まりなどもあり、振り返って、タイミング（運？）の良さを実感している。

### 3 展覧会の成果

コンセプト優先企画であったため、具体的な展示物の収集が最難関であった。すなわち、展覧会の成果は出品目録そのものといえるのだが、前述の『ドグラ・マグラ』初期草稿のほか、久米民十郎の霊媒画、野原櫻州と念写実験の関係、松橋吉之助旧蔵桑原俊郎資料等が準備中に続々と発見された。また、出展によって新たにわかったこともあった。大衆芸を研究している社会学者<sup>2</sup>から、見

世物芸のヴィジュアル例として借用・出陳した絵葉書に写っている人物が、江間式心身鍛練法・江間式気合術の江間俊一であることが、霊術研究の宗教学者<sup>3</sup>の指摘で判明した。これは、高度に専門細分化された既存の学問領域からはずれたテーマ選択により、否応なく横断的・学際的な展示構成になった展覧会だからこそその成果だったと思う。スペシャリストばかりのこんにちの学界で、ジェネラリストたらざるを得ない学芸員（そのため学者世界では異端）の視点だからこそ発見のきっかけを提供できたのではなかろうか。いい意味での総花的展示のラッキーなヒットとなった。

### 4 おわりに

とはいえ、近現代史の未踏のこの分野を具体的な資料で紹介するには、まだまだ取り上げることができなかったテーマが多い。実をいうと、テーマとして取り上げたけれども、所蔵者に「オカルト」云々の際物扱いを忌避して協力を拒否されたこともあった。展覧会の中核部分のテーマ設定やタイトルからして致し方ない反応だったと思う。今後、テーマと議論の深化を待ちたい。

<sup>1</sup> 西日本新聞 2014 年 1 月 8 日など。

<sup>2</sup> 鶴飼正樹氏。

<sup>3</sup> 吉永進一氏。

表2 参考文献（書籍）

書名	著書	出版者	出版年	所収論文(備考)	著者
無意識という物語	一柳廣孝	名古屋大学出版会	2014		
霊術家の黄金時代	井村宏次	ピング・ネット・プレス	2014		
現代オカルトの根源 霊性進化論の光と闇	大田俊寛	筑摩書房	2013		
東北アジア研究センター報告 8 身体的実践としてのシャマニズム	菊谷竜太他	東北大学東北アジア研究センター	2013		
妖怪学の祖 井上円了	菊地章太	角川学芸出版	2013		
怪異・妖怪文化の伝統と創造 ウチとノトの視点から	国際日本文化研究センター	国際日本文化研究センター	2013	(第45回国際日本文化研究センター国際研究集会報告要旨集)	
本の万華鏡第13回 千里眼事件とその時代	国立国会図書館	国立国会図書館	2013	<a href="http://www.ndl.go.jp/kaleido/entry/13/">http://www.ndl.go.jp/kaleido/entry/13/</a>	
東海の異才・奇人列伝	小松文生子	風媒社	2013		
脳病院をめぐる人びと	近藤祐	彩流社	2013		
超心理学 封印された超常現象の科学	石川幹人	紀伊国屋書店	2012		
現代台湾鬼譚 海を渡った「学校の怪談」	伊藤龍平他	青弓社	2012		
ご家庭にあった本 古本で見る昭和の生活	岡崎武志	筑摩書房	2012	電気のふしぎ バラ色だった科学の未来	
日本の精神医療史 明治から昭和初期まで	金川英雄	青弓社	2012		
図説 異端の宗教書	久米晶史	新人物往来社	2012		
幕末明治見世物事典	倉田喜弘	吉川弘文館	2012		
ぼくらの昭和オカルト大百科 70年代オカルトブーム再考	初見健一	大空出版	2012		
岡田虎二郎先生生誕140年記念 静坐創始者 岡田虎二郎	田原静坐会	田原静坐会	2012		
野村純一著作集 7 世間話と怪異	野村純一	清文堂出版	2012	「口裂け女」の生成と展開 現代の妖怪 「口裂け女」事情 「口裂け女」の消息 都市型妖怪「口裂け女」 「革新派妖怪」口裂け女 なぜ三人姉妹の末っ子に 話のカギ握る末っ子	
文学の極意は怪談である 文豪怪談の世界	東雅夫	筑摩書房	2012		
幻想文学講義 「幻想文学」インタビュー集成	東雅夫	国書刊行会	2012	闇なる明治を求めて 現代英国心霊模様	前田愛 三浦清宏
世界の心霊写真 カメラがとらえた幽霊たち、その歴史と真偽	メルヴィン・ウィリン	洋泉社	2012		
オカルト 現れるモノ、隠れるモノ、見たいモノ	森達也	角川書店	2012		
妖怪手品の時代	横山泰子	青弓社	2012		
霊園から見た近代日本	浦辺登	弦書房	2011		
越境する漱石文学	坂元昌樹他	思文閣出版	2011	精神病者をどう描くか チューホフ、中村古峽と漱石	佐々木英昭
方法としての心理学史 心理学を語り直す	サトウタツヤ	新曜社	2011		
新アジア仏教史 14 日本 4 近代国家と仏教	末木文美士	佼成出版社	2011	オカルティズムと仏教	吉永進一
熊崎健翁関係資料	藤井健志他	東京学芸大学藤井健志研究室	2011	(共同研究報告書)	
バラエティ化する宗教	石井研士	青弓社	2010		
闇のファンタジー	一柳廣孝他	青弓社	2010	「全国精神療法家大番附」 霊術家たちの最後の輝き 闇はすぐそこにある 諸星大二郎をめぐる	一柳廣孝 表智之
江戸幻獣博物誌 妖怪と未確認動物のはざままで	伊藤龍平	青弓社	2010		
古本探究 3	小田光雄	論創社	2010	水野葉舟と「心霊問題叢書」 心霊研究と出版社 浅野和二郎と大本教の出版 大本教批判者としての中村古峽	
妖怪学講義	菊地章太	講談社	2010		
妖怪文化の伝統と創造 絵巻・草紙からマンガ・ラノベまで	小松和彦	せりか書房	2010		
治療の場所と精神医療史	橋本明	日本評論社	2010		
遠野物語と怪談の時代	東雅夫	角川学芸出版	2010		
恵那市を知るまいか まちづくり歴史講座 田中守平其の二	宮崎光雄	武並コミュニティーセンター	2010	(講演会配布資料)	
遠野物語と21世紀 近代日本への挑戦	石井研士他	三弥井書店	2009	心霊データベースとしての「遠野物語」 神秘主義の視点から	一柳廣孝
幕末明治 百物語	一柳廣孝他	国書刊行会	2009		
魔界と妖界の日本史	上島敏昭	現代書館	2009		
日本の民俗 10 都市の生活	内田忠賢他	吉川弘文館	2009	昭和大眾芸能史の一断面 人間ポンプを追って	鶴飼正樹
坐る力	齋藤孝	文藝春秋	2009		
漱石先生への暗示	佐々木英昭	名古屋大学出版会	2009		
怪談異譚 怨念の近代	谷口基	水声社	2009		
江戸・都市の中の異界	内藤正敏	法政大学出版局	2009	見世物 歌舞伎の源流	
オカルトの惑星 1980年代、もう一つの世界地図	吉田司雄	青弓社	2009		
テレビと宗教 オウム以後を問い直す	石井研士	中央公論新社	2008		
女は変身する	一柳廣孝他	青弓社	2008	その後の太霊道 日本霊道会と機関誌「霊界」をめぐる	一柳廣孝
ツチノコの民俗学 妖怪から未確認動物へ	伊藤龍平	青弓社	2008		
怪奇と幻想への回路 怪談からJホラーへ	内山一樹	森話社	2008		
東大オタク学講座	岡田斗司夫	講談社	2008		

書名	著書	出版者	出版年	所収論文(備考)	著者
代表的日本人	齋藤孝	筑摩書房	2008	岡田虎二郎の静坐力	
オオカミ少女はいなかった 心理学の神話をめぐる冒険	鈴木光太郎	新曜社	2008		
生誕150年「不思議博士・井上円了」	中野区立中央図書館	中野区立中央図書館	2008	(企画展示 地域の著作者紹介・第5回 図録)	
日本化け物史講座	原田実	楽工社	2008		
日本「霊能者」列伝	別冊宝島編集部	宝島社	2008		
近代スピリチュアリズムの歴史 心霊研究から超心理学へ	三浦清宏	講談社	2008		
恵那市を知らずまいか 定期歴史講座 近代裏面史を彩った恵那出身のフィクサー 飯野吉三郎と田中守平	宮崎光雄	岩村公民館	2008	(講演会配布資料)	
科学とオカルト	池田清彦	講談社	2007		
霊はどこにいるのか	一柳廣孝他	青弓社	2007		
映画の恐怖	一柳廣孝他	青弓社	2007	「天命学院講習録」最後の気合術師・濱口熊嶽の教え	一柳廣孝
近代日本心霊文学セレクション 霊を読む	一柳廣孝他	蒼丘書林	2007		
フランス(心霊科学)考 宗教と科学のフロンティア	稲垣直樹	人文書院	2007		
現代幽霊論 妖怪・幽霊・地縛霊	大島清昭	岩田書院	2007		
旅芸人のいた風景 遍歴・流浪・渡世	沖浦和光	文藝春秋	2007		
憑依と近代のポリティクス	川村邦光	青弓社	2007	近代日本における憑依の系譜とポリティクス 明治期日本の知識人と神智学 憑依が精神病にされるとき 人格変換・宗教弾圧・精神鑑定	川村邦光 吉永進一 兵頭晶子
紙芝居と(不気味なもの)たちの近代	姜媛	青弓社	2007		
スピリチュアリティの興隆	島蘭進	岩波書店	2007		
江戸の妖怪事件簿	田中聡	集英社	2007		
中原樞二郎と岡田虎二郎 自然の理法・樞二郎をめぐる作家達	田原市博物館	田原市博物館	2007	(図録)	
明治時代の人生相談	山田邦紀	日本文芸社	2007	(狐憑き・催眠術・記憶術)	
心理学を変えた40の研究 心理学の“常識”はこうして生まれた	ロジャー・R・ホック	ピアソン・エデュケーション	2007	催眠術をかけられたかのように行動する	
オカルトの帝国 1970年代の日本を読む	一柳廣孝	青弓社	2006		
感覚の近代	坪秀人	名古屋大学出版会	2006	山とシネマと 〈故郷を失った文学〉とスクリーンの中の異界	
妖怪は増殖する	一柳廣孝他	青弓社	2006		
日本人の妖怪観の変遷に関する研究 近世後期の「妖怪娯楽」を中心に	香川雅信	総合研究大学院大学	2006	(学位論文)	
日本人の異界観	小松和彦	せりか書房	2006	ケータイする異界 怪異譚の現在 ツチノコ論序説 妖怪・幻獣・未確認生物 明治期の新聞にみる怪異記事の動向と諸相	高岡弘幸 伊藤龍平 湯本豪一
幻想文学 近代の魔界へ	高木史人他	青弓社	2006	「怪談」と語りの近代	飯倉義之
開拓の村展示建造物からみた明治・大正期の生活文化史	北海道開拓の村	北海道開拓の村	2006	北海道移住と伝説のかたち 秋田県を母村とする秋山家と松橋家を例に	黒川郁
江戸の妖怪革命	香川雅信	河出書房新社	2005		
〈変態〉の時代	菅野聡美	講談社	2005		
心理学の新しいかたち2 心理学史の新しいかたち	佐藤達哉	誠信書房	2005		
〈霊〉の探究 近代スピリチュアリズムと宗教学	津城寛文	春秋社	2005		
千里眼事件 科学とオカルトの明治日本	長山靖生	平凡社	2005		
日本の博覧会 寺下勅コレクション(別冊太陽133)	湯原公浩	平凡社	2005		
日本幻獣図説	湯本豪一	河出書房新社	2005		
明治ものの流行事典	湯本豪一	柏書房	2005	記憶術/コックリさん/催眠術/千里眼	
「学校の怪談」はささやく	一柳廣孝他	青弓社	2005		
心霊写真は語る	一柳廣孝	青弓社	2004		
心理主義時代における宗教と心理療法の内在的関係 に関する宗教哲学的考察	岩田文昭		2004	(科研費報告書)	
透視も念写も事実である 福来友吉と千里眼事件	寺沢龍	草思社	2004		
日本人の身・心・霊 近代民間精神療法叢書8	吉永進一	クレス出版	2004	解説 民間精神療法の時代	
街道の日本史29 名古屋・岐阜と中山道	松田之利他	吉川弘文館	2004	宗教と民衆運動	遠山佳治
日本の幻獣 未確認生物出現録	川崎市 市民ミュージアム	川崎市市民ミュージアム	2004		
新編中原中也全集 5 日記・書簡 解題篇	大岡昇平他	角川書店	2003	「療養日誌」解題/「千葉寺雑記」解題	
日本妖怪学大全	小松和彦	小学館	2003	1920年代、(心霊)は増殖する 化物屋敷再考 「私、きれい!?」 女性週刊誌に見られる「口裂け女」	一柳廣孝 橋爪紳也 マイケル・フォスター
流れを読む心理学史 世界と日本の心理学	サウトツヤ他	有斐閣	2003		
流れを読む心理学史：世界と日本の心理学	サウトツヤ他	有斐閣	2003		
中国のこっくりさん 扶鸞信仰と華人社会	志賀市子	大修館書店	2003		
〈癒す知〉の系譜 科学と宗教のはざま	島蘭進	吉川弘文館	2003		
ディスプレイ100年の旅 乃村工藝社100年史	社史編集部	乃村工藝社	2003		
柳宗悦 時代と思想	中見真理	東京大学出版会	2003		
うわさの遠近法	松山巖	筑摩書房	2003	超能力の発見 千里眼事件 妖怪学と失念術	
運動+(反)成長 身体医文化論2	武藤浩史他	慶応義塾大学出版会	2003	漱石と神経衰弱と退化と	仙葉豊
見世物はおもしろい	湯原公浩	平凡社	2003		

特別展「奇なるものへの挑戦 明治大正／異端の科学」について 参考文献リストと年表

書名	著書	出版者	出版年	所収論文(備考)	著者
日本妖怪学大全 国際日本文化研究センター共同研究・成果論文集	小松和彦	小学館	2003	三遊亭円朝の怪談に隠された“王権と幽霊”の物語	内藤正敏
怪獣はなぜ日本を襲うのか?	長山靖生	筑摩書房	2002		
スピリチュアリティを生きたる 新しい絆を求めて	梶尾直樹	せりか書房	2002	日本の霊的思想の過去と現在 カルト的場の命運 見世物一座で働く 大寅興行社の(絆)	吉永進一 門伝仁志
岩波講座近代日本の文化史5 編成されるナショナリズム	小森陽一他	岩波書店	2002	日常性 異常性の文化と科学 脳病・変態・猟奇をめぐって 大本霊学と日蓮主義 近代日本の「公共宗教をめざすもの」	川村邦光 津城寛光
つながりの中の癒し セラピー文化の展開	田邊信太郎他	専修大学出版局	2002		
ツチノコの正体	手嶋靖鈴	三一書房	2002		
妖怪あつめ	湯本豪一	角川書店	2002		
妊娠するロボット 1920年代の科学と幻想	吉田司雄他	春風社	2002	霊界からの声	一柳廣孝
日本における心理学の受容と展開	佐藤達哉	北大路書房	2002		
日本における怪異・怪談及び妖怪文化に関する総合的研究	小松和彦	国際日本文化研究センター等	2002	怪異伝承の収集とカード化の過程	真鍋昌賢
井上円了 妖怪学全集 6	井上円了	柏書房	2001	解説 井上円了の妖怪学の歴史的意義 解説 井上円了の妖怪学とそれ以後 解説 井上円了と妖怪学の誕生	板倉聖宣 小松和彦 三浦節夫
変態心理!と中村古峽 大正文化への新視角	小田晋他	不二出版	2001		
日本のアヴァンギャルド芸術 (マヴォ)とその時代	五十殿利治	青土社	2001	(タミの夢)とモダニズム 久米民十郎とエズラ・パウンド	
宗教心理の探究	島園進他	東京大学出版会	2001		
癒しと救い アジアの宗教的伝統に学ぶ	立川武蔵	玉川大学出版部	2001	日本近現代における(癒しの技法) 手かざし(浄霊)の誕生について	正木寛
偏見というまざし 近代日本の感性	坪井秀人	青弓社	2001	近代的視線と身体が発見 明治末・超感覚を定位する 催眠術・千里眼・科学 ヒステリー メディアのなかの病	佐藤(佐久間) りか 一柳廣孝 船越幹央
地方発 明治妖怪ニュース	湯本豪一	柏書房	2001		
逆立ちしたフランケンシュタイン 科学仕掛けの神秘主義	新戸雅章	筑摩書房	2000		
見世物稼業 安田里美一代記	鶴飼正樹	新宿書房	2000		
実験心理学の誕生と展開	宇阪直行	京都大学学術出版会	2000		
「健康」の日本史	北澤一利	平凡社	2000		
心霊写真	小池社彦	宝島社	2000		
怪異の民俗学 2 妖怪	小松和彦	河出書房新社	2000	日本における「化物屋敷」観 妖怪と現代文化 子どもと妖怪 学校のトイレ空間と怪異現象	橋爪紳也 小松和彦 常光徹
記憶する民俗社会	小松和彦	人文書院	2000	そぞろにおそろしくおぼえて近世怪談にみる怪異空間の諸相	内田忠賢
鎮魂行法論：近代神道世界の靈魂論と身体論	津城寛光著	春秋社	2000	(1990初版)	
日本怪奇幻想紀行 4 芸能・見世物録	同朋舎	同朋舎	2000	お化け屋敷の恐怖空間に震える	橋爪紳也
見世物小屋の文化誌	鶴飼正樹他	新宿書房	1999		
宗教と生活	大塚信一	岩波書店	1999	近代日本におけるオカルト・ブームと新宗教 婦人雑誌と占い 雑誌「婦人世界」に見る占いの情報化 東洋医学と民間療法	沼尻正之 鈴木健太郎 石田秀実
近代中国のシャーマニズムと道教	志賀市子	勉誠出版	1999		
童話学がわかる。(アエラムック 47)	関戸衛	朝日新聞社	1999	「学校の怪談」のリアリズム	一柳廣孝
癒しを生きた人々 近代知のオルタナティブ	田邊信太郎他	専修大学出版局	1999		
鷗外のおカルト、漱石の科学	長山靖生	新潮社	1999		
西洋の夢幻能 イェイツとパウンド	成恵卿	河出書房新社	1999		
自然と文化 59 見世物	日本ナショナルトラスト	日本ナショナルトラスト	1999		
神々宿り都市 世俗都市の宗教社会学	矢部敬一	創元社	1999		
明治妖怪新聞	湯本豪一	柏書房	1999		
宗教オカルト時代の心理学	小田晋	至文堂	1999		
「漱石」がわかる。(アエラムック 41)	大森千明	朝日新聞社	1998	神経衰弱とは何だったか 「科学の時代」とスピリチュアリズム	川村邦光 一柳廣孝
第86回常設展示 占いあれこれ	国立国会図書館	国立国会図書館	1998	<a href="https://mavi.ndl.go.jp/kaleido/tmp/86.pdf">https://mavi.ndl.go.jp/kaleido/tmp/86.pdf</a>	
怪物科学者の時代	田中聡	晶文社	1998		
図説 幕末明治流行事典	湯本豪一	柏書房	1998	記憶術/コックリさん/催眠術/千里眼	
スキャンダルの科学史	「科学朝日」	朝日新聞社	1997	千里眼事件 山川健次郎	根本順吉
記憶術のススメ 近代日本と立身出世	岩井洋	青弓社	1997		
幻視する近代空間 迷信・病氣・座敷牢、あるいは歴史の記憶	川村邦光	青弓社	1997		
決定版 快樂亭ブラック伝	小島貞二	恒文社	1997		
岩波講座文化人類学 10 神話とメディア	小松和彦他	岩波書店	1997	透視と念写 明治末期の千里眼新聞報道に見る「神話」表象	関一敏
靈感少女論	近藤雅樹	河出書房新社	1997		
うわさと俗信 民俗学の手帖から	常光徹	高知新聞社	1997		
江戸東京の怪談文化の成立と変遷 19世紀を中心に	横山泰子	風間書房	1997		
催眠術の日本近代	一柳廣孝	青弓社	1997		
通史 日本の心理学	佐藤達哉他	北大路書房	1997		
異文化への視線	佐々木英昭	名古屋大学出版会	1996	霊の生まれる場所 科学とスピリチュアリズムの狭間で	一柳廣孝
「生命」で読む日本近代 大正生命主義の誕生と展開	鈴木貞美	日本放送出版協会	1996		
健康法と癒しの社会史	田中聡	青弓社	1996		
新・霊術家の饗宴	井村宏次	心交社	1996		
怖い話の本(別冊宝島 268)		宝島社	1996	心霊科学の敗北と近代型恐怖譚のカタチ	一柳廣孝

書名	著書	出版者	出版年	所収論文(備考)	著者
大正期新興美術運動の研究	五十殿利治	スカイデア	1995		
癒しと和解 現代におけるCAREの諸相	新屋重彦他	ハーベスト社	1995		
現代民話考7 学校ほか	松谷みよ子	立風書房	1995	(1987第1刷)	
性の猟奇モダン 日本変態研究往来	秋田昌美	青弓社	1994		
万国心霊古写真集 大心霊科学時代の遺産1860-1930	菊池正宏	南方堂	1994		
日本奇書・偽書・異端書大鑑(別冊歴史読本 43(19-14))	佐藤實	新人物往来社	1994		
乱歩の時代 昭和エロ・グロ・ナンセンス(別冊太陽 88)	高橋洋二	平凡社	1994	魔術・心霊学・霊術	一柳廣孝
化物屋敷	橋爪紳也	中央公論社	1994		
<こっくりさん>と<千里眼>	一柳廣孝	講談社	1994		
体験 ニッポン新宗教の体験談フォークロア	リチャード・W・アンダーソン	現代書館	1994		
「宗教と科学」基礎文献・外国篇	河合隼雄他	岩波書店	1993	超心理的事象の共時的基礎	イラ・プロコフ
学校の怪談 口承文芸の展開と諸相	常光徹	ミネルヴァ書房	1993		
科学時代の神々	河合隼雄他	岩波書店	1992	神哲学の系譜	高橋巖
スーパーサイエンス 異形の科学を拓いたサイエンティストたち	井村宏次	新人物往来社	1992		
近代化と宗教ブーム	國學院大學 日本文化研究所	同朋舎	1990		
日本の名隨筆 95 噂	後藤明生	作品社	1990	比叡山伝綺 (口裂け女) 異聞 噂の構造	寺山修司 綱淵謙錠 後藤明生
臨床心理学大系7 心理療法 1	小此木啓吾他	金子書房	1990		
明治の迷宮都市 東京・大阪の遊楽空間	橋爪紳也	平凡社	1990	都市と見世物小屋の近代	
迷路のなかの快楽*					
うわさの本(別冊宝島92)	石井慎二	宝島社	1989	都市伝説としての信仰治療 少女民俗学詩論 D.P.Eは逢魔の時間 複製技術時代の心霊写真!? 「うわさ話」の思想史	棚島次郎 大塚英志 浅羽通明 佐藤健二
神の震 浅野和二郎、近代知性の悲劇	松本健一	新潮社	1989		
日本のオカルティズム 妖異風俗	阿部主計他	雄山閣出版	1988	心霊術・読心術・催眠術	
奇っ怪紳士録	荒俣宏	平凡社	1988	変態研究家、大本教に噛みつく(中村古秧) 霊媒ハンターの悲しみ(長田幹彦)	
黒岩涙香 探偵小説の元祖	伊藤秀雄	三一書房	1988		
神界のフィールドワーク	鎌田東二	青弓社	1987	霊学と霊術 近代におけるその発端と展開 大正維新と霊的シンクレティズム 神哲学受容の一波紋	
科学と非科学のあいだ	下坂英他	木鐸社	1987	心霊研究と物理学 スプーン曲げとテレパシー 超常科学は科学たりうるか	高田紀代志 橋本毅彦
ニューサイエンス 科学と神秘主義	鶴尾功他	新日本出版社	1987		
昔話・伝説小事典	野村純一他	みずうみ書房	1987	学校の世間話/口裂け女	
かわりだねの科学者たち	板倉聖宣	仮設社	1987	妖怪博士・井上円了と妖怪学の展開	
オカルト・ムーヴメント	近代ピラミッド協会	創林社	1986		
月の裏側の念写の数理的検討 宇宙船による新月面図との照合	後藤以紀	日本心霊科学協会	1986	(1985初版)	
鬼の玉手箱 民俗社会との交感	小松和彦	青玄社	1986	「口裂け女」の意味論	
明治医事往来	立川昭二	新潮社	1986	頭痛・肩こり	
超心理学者福来友吉の生涯	中沢信午	大陸書房	1986		
エスラ・バウンド研究	福田陸太郎他	山口書店	1986	バウンドと久米民十郎の交友	角田史郎
迷彩の道標 評伝日本の精神医療	秋元波留夫	NOVA出版	1985		
歴史読本臨時増刊 世界驚異の占い・霊術・魔術	野村敏晴	新人物往来社	1985		
口頭伝承の比較研究1	川田順造他	弘文社	1984	話の行方 「口裂け女」その他	野村純一
千里眼千鶴子	光岡明	文藝春秋	1983	千里眼事件の裏面史	一柳廣孝
妖怪博士・円了と妖怪学の展開	板倉聖宣	国書刊行会	1983	(新編妖怪叢書別冊)	
心霊と神秘世界 研究解説編	現代霊学研究會	心交社	1982		
新霊交思想の研究	田中千代松	共栄書房	1981	(1971初版)	
日本人と近代科学	渡辺正雄	岩波書店	1976		
70万時間の旅 2	社史編纂委員会	乃村工藝社	1975	《日本伝説お化け大会》両国国技館	
心霊現象の科学	小熊虎之助	芙蓉書房	1974		
現代心理学の群像 人とその業績	古賀行義	協同出版	1974		
近代文学研究叢書 39	昭和女子大学 近代文学研究室	昭和女子大学近代文化研 究所	1974	高橋五郎	平井法他
座談会大正文学史	柳田和泉他	岩波書店	1965	大正期の思想と文学 阿部次郎・倉田百三・和辻哲郎など	
定本柳田国男集 9	柳田国男	筑摩書房	1962	池袋の石打と飛驒の牛蒡種	
現代の哲学及哲学者	野村隲畔	京文社	1921	福来友吉氏の哲学(心理学的生命論)	

表3 参考文献(雑誌)

著者	年月	タイトル	掲載誌
石井研士	2013-09	機械の中の幽霊(＜特集＞科学・技術と宗教)	宗教研究 87-2, pp303-327
東雅夫	2013-08	山また山を越え過ぎて 明治怪談文学史における能楽の影響をめぐって	幽 19
野村英登	2013-03	井上円了における催眠術と瞑想	「エコ・フィロソフィ」研究 別冊 7 pp21-30
栗田英彦	2013-00	国際日本文化研究センター所蔵静坐社資料 解説と目録	日本研究 47
佐々木浩雄	2013-00	1910年代における呼吸健康法の流行と体育界の反応 「呼吸運動」に関する記述の分析より	龍谷紀要 34-2
小泉晋一	2012-10	福来友吉の催眠研究に関する文献調査	催眠学研究 54-1/2, pp12-20
	2012-07	観光まちづくりレポート 新たなかたちで地域の活性化を図る「ツチノコ共和国」 奈良県下北山村	ナント経済月報, pp18-21
林淳, 吉永進一, 大谷栄一	2012-05	国際日本文化研究センター第41回国際研究集会「近代と仏教」に参加して	近代仏教 19, pp128-135
三井寛文	2012-03	文化現象としての疑似科学考察	常民文化 35, pp1-28
横山泰子	2012-03	秘術の公開 江戸時代の手品本に見られるまじないについて	国立歴史民俗博物館研究報告書 174
河合勝 溝上由紀	2012-00	日本古典奇術「目付絵」について	愛知江南短期大学紀要 41
長野美香	2012-00	近代日本における修養 内村鑑三の「修養」論から(主題別討議報告 修養という思想)	倫理学年報 61, pp78-81
吉永進一	2012-00	講演 近代仏教史における鈴木大拙(特集 鈴木大拙の思想)	宗教哲学研究 29, pp11-23
常光徹	2011-03	予言をする妖怪(怪談特集)	澁谷近世 17, pp15-22
平野直子	2011-03	代替療法とリスクのコミュニケーション ホメオパシーに関するメディア報道を事例として	ソシオジカル・ペーパーズ 20, pp33-50
笹川吉晴	2011-02	ゼロ年代ホラー/怪談を中心に(特集 エンターテインメント最前線)	大衆文学研究 2011-1, pp20-24
野口哲典	2011-02	サイエンスコラム(第4回)ツチノコがいる確率は?	鍍金の世界 44-2, pp51-54
小泉凡	2011-00	怪談の資源的活用をめざして 「松江コースツアー」の事例から(特集 スロー・ツーリズムの胎動)	季刊中国総研 15-2, pp1-8
横山泰子	2010-12	乱歩が魅せる妖怪手品	法政大学小金井論集 7, pp105-124
吉永進一	2010-09	近代日本における神智学思想の歴史(＜特集＞スピリチュアリティ)	宗教研究 84-2, pp579-601
岩井洋	2010-07	L・ハーンにおける怪談の意味 時代精神の系譜から(特集 エコクリティシズム)	水声通信 6-1, pp188-198
下村育世 石川偉子	2010-07	心道の教祖熊崎健翁の人生史 その思想形成と活動の変遷	一橋社会科学 2-30
雅夫	2010-06	怪談趣味で繋がった佐々木喜善, 柳田国男, 水野葉舟 「名作」誕生と, それぞれの「遠野物語」(特集 100年の遠野物語)	望星 41-6, pp40-44
中嶋隆蔵	2010-05	江戸時代における「静坐」論	神奈川近代文学館 29, pp19-47
吉永進一	2010-03	近代人の「靈魂」論(＜特集＞魂のありか)	人体科学とニューサイエンスの情報誌 20, pp2-5
吉永進一	2010-03	大正期大本教の宗教的場 出口仁仁三郎, 浅野和二郎, 宗教的遍歴者たち	舞鶴工業高等専門学校紀要 45, pp69-80
和崎光太郎	2010-03	世紀転換期における「修養」の変容	教育史フォーラム 5, pp21-36
渡辺勝義	2010-03	日本精神文化の根拠にあるもの 9 「霊学の道」	長崎ウエスレヤン大学現代社会学部紀要 8-1
相川宏	2010-00	修養から霊術へ 霊的身体の興亡(2)	日本大学芸術学部紀要 52, pp25-34
鈴木純規	2010-00	江戸の記憶術と忘却術 青木先生 物覚秘伝 と建部綾足「古今物わすれ」	中京大学図書館学紀要 31, pp33-79
鈴木由加里	2010-00	アンリ・ベルクソンと井上円了	井上円了センター年報 19, pp57-79
浜野志保	2010-00	カレンベルクの写真ダウジング	SITE ZERO/ZERO SITE 3, pp2-91
平野直子	2010-00	「近代」というカテゴリにおける「普遍」と「個別」 手当て療法「レイキ」の80年史を事例として	早稲田大学大学院文学研究科紀要 第1分冊 56, pp47-61
吉永進一	2010-00	近代日本における神智学思想の歴史	宗教研究 365, pp375-395
菊地章太	2009-12	UFOと円了妖怪学	ながら 日本流体力学会誌 28-6, pp443-446
野村英登	2009-12	「新青年」と修養法の近代化 静坐から体育へ	神話と詩 8, pp63-92
	2009-12	人間行動科学 回転寿司(第2章 人間行動科学回転寿司とお化け屋敷, ＜特集＞もうひとつの建築設計資料集)	建築雑誌 124(1597), p40
中根研一	2009-09	中国「怪獣文化」の研究 現代メディアの中で増殖する異形の動物たち	北海学園大学学術論集 141, pp91-121
辛酸なめ子	2009-08	霊道紀行(17) お化け屋敷の恐怖	本の旅人 15-8, pp94-97
堤邦彦	2009-08	日本の怪異譚 仏教と江戸怪談(特集 アジアの怪奇譚)	アジア遊学 125, pp44-53
一柳廣孝	2009-03	心霊としての「幽霊」 近代日本における「霊」言説の変容をめぐって(特集 古典「学」(知/教育)(2))	物語研究 9, pp12-19
戸田弘子	2009-03	「加持祈禱」という身体(治療)の近代 中村小次郎の「精神療法」再考	文化 批評 1
福井義一	2009-03	文献紹介 催眠古書探訪(その4)福来友吉が残したもの 催眠研究編「催眠の心理学的研究」, 「催眠心理学 全」, 「変態心理学講義要録」	臨床催眠学 10, pp63-66
五十殿利治	2009-02	久米民十郎と「霊媒画」について 新出資料の照会を中心にして(下)	美術運動史研究会ニュース
五十殿利治	2009-01	久米民十郎と「霊媒画」について 新出資料の照会を中心にして(上)	美術運動史研究会ニュース
一柳廣孝	2008-12	オカルティスト, 芥川龍之介	幽 10, pp16-21
伊藤龍平	2008-10	ネット怪談「くねくね」考—世間話の伝承について—	世間話研究 18, p1-31
伊藤龍平	2008-09	未確認動物の民俗学へ 「信濃奇蹟録」の異獣たち(特集 UMA(未確認動物)のいる科学史(2007年度シンポジウム報告))	生物学史研究 80, pp37-47
小泉晋一	2008-09	日本の催眠研究の草創期 福来友吉の催眠研究を中心に(特集 催眠と臨床応用)	臨床心理学 8-5, pp668-673
井上順孝	2008-08	大学生の意識調査から 古いオカルトブームと若者(特集 夏休み企画 だまされるな学生)	国民生活 4, pp26-28
吉永進一	2008-06	太霊と国家 太霊道における国家観の意味	人体科学 17-1, pp35-51
足立洋一郎	2008-03	地方改良運動における報徳運動	駿台学 133, pp1-23
寺石悦章	2008-03	現代日本におけるレイキ レイキはどのように紹介されているか	四日市大学総合政策学部論集 7-1/2, pp1-21
飯倉義之	2008-00	口承文芸研究からの現代批評 都市伝説は陰謀する 2000年代後半の「都市伝説」ブーム・走り書き	口承文芸研究 31, pp172-175
伊藤雄大	2008-00	忘れたことを思い出す 19世紀の犯罪捜査と心霊術のコンタクトゾーン	美術科研究 26, pp153-164
村井則夫	2008-00	記憶術と方法 弁論術の終焉と近代的思考の誕生(特集 言語と教育)	接続 8, pp146-182
山根知子	2008-00	宮沢トシの学びと賢治 日本女子大時代教師, 福来友吉・阿部次郎を通して	宮沢賢治研究annual 18, pp144-160
志賀市子	2007-12	民国期上海における催眠術の流行	日本開一多学会報 神話と詩 6
住吉玲弥	2007-12	都市伝承への視角 トイレの花子さん攷	尾道大学日本文学論集 3, pp115-123
三浦正雄	2007-12	神経病としての怪談 日本近現代怪談文学史(1)	埼玉学園大学紀要 人間学部篇 7, pp255-268
津城寛文	2007-11	死者の幻影—民俗信仰と心霊研究の間	埼玉聖徳記念学会紀要 44, pp192-203
長山靖生	2007-10/11	明治サイエンス事件帳	NHK知るを楽しむ歴史に好奇心 3-16
一柳廣孝	2007-09	怪談の時代(特集 怪談)(総之巻)	国文学 解釈と教材の研究 52-11, pp16-23
大島建彦	2007-09	民間伝承に残る怪談(特集 怪談)(感之巻)	国文学 解釈と教材の研究 52-11, pp106-113
末國善己	2007-09	明治期の恐怖小説(特集 怪談)(文学之巻)	国文学 解釈と教材の研究 52-11, pp48-55
村上健司	2007-09	妖怪はいかにして生まれてきたのか 現代人がイメージする妖怪の誕生(特集 怪談)(感之巻)	国文学 解釈と教材の研究 52-11, pp114-121
平岡厚	2007-08	現代の日本におけるオカルト・疑似科学の動向	もうひとつの世界へ 10, pp44-47
吉永進一	2007-08	精神の力 民間精神療法思想	人体科学 16-1, pp9-21
西村好子	2007-07	漱石とオカルト 初期翻訳「催眠術」(Ernest Hart, M.D.)を巡って(特集 明治初期の翻訳・翻案文学 もう一つの近代文学の源)	国文論集 38 pp14-23
宇野田綾子	2007-05	コックリさん関連資料 井上円了コレクションより	民具マンスリー 40-2
東入口愛	2007-03	二人の幽霊, 二つめの怪談, 怪談の行方 三遊亭円朝「怪談牡丹燈籠」を読む	愛知淑徳大学国語国文 30, pp67-83

著者	年月	タイトル	掲載誌
小林康正	2007-00	姓名学の誕生 大衆新聞の登場と読むことの想像力を中心に	京都文教大学人間学部研究報告 10
一柳廣孝	2006-10	霊術を売る 日本心霊学会の言説戦略をめぐって (特集 現代社会における霊魂)	比較日本文化研究 10, pp9-26
子安宣邦, 一柳廣孝, 関一敏他	2006-10	討論 揺れ動く<霊魂>の姿 (特集 現代社会における霊魂)	比較日本文化研究 10, pp36-53
久米晶文	2006-09	宗教史 秘史 異端の宗教書(7)近代の霊術家たちと霊術・呪法	歴史誌本 51-12, pp41-46
向山毅	2006-09	物理学者と超自然現象	研究論集 84, pp173-187
一柳廣孝	2006-08	「怪談」から読み解く現代社会 (特別納涼企画「幽霊」のお話し)	第三文明 560, pp70-72
香川雅信	2006-07	<靈感>考 一怪異のヴァーチャルリアリティ化	国際宗教学研究ニュースレター 51, pp3-8
吉永進一	2006-06	報告2.太霊道とその後(宗教と心理療法の相互内在性-宗教哲学的・思想的観点から-、テーマセッション3,2005年度学術大会・テーマセッション記録)	宗教と社会 12, pp235-238
甲田烈	2006-05	方法としての(不思議) 心理妖怪学への一試論	トランスパーソナル学研究 8, pp25-35
志賀市子	2006-02	近代上海のスピリチュアリズム 霊学会とその時代 (特集 アジアのスピリチュアリティ 精神的基層を求めて) (自己変容と社会変動)	アジア遊学 84, pp63-75
飯倉義之	2006-00	「名付け」と「知識」の妖怪現象	口承文芸研究 29
平野直子	2006-00	「大衆的スピリチュアリティ」の現在	早稲田大学大学院文学研究科紀要 第1分冊 52, pp69-78
小泉晋一他	2005-9	日本における臨床心理学の導入と受容過程2	日本心理学会第69回大会
中尾裕子	2005-11	口裂け女は、妖怪か	史苑 66-1, pp105-117
横山茂雄	2005-11	「怪談」の近代 (特集 怪異をひらく 近代の時空へ)	日本文学 54-11, pp2-15
堤邦彦	2005-10	女人蛇体の文化変遷 唱導文芸から江戸怪談まで (特集 近世文学, ミステリーからの照射)	日本文学 54-10, pp2-12
2005-10	和製ラズプーチン 飯野吉三郎と下田歌子 (総力特集 明治・大正・昭和 皇室10大事件簿)	新潮45 24-10, pp34-37	
大塚英志	2005-09	怪談前夜(続)(5)第五章 異常心理と伝承	本の旅人 11-9, pp80-86
大塚英志	2005-06	怪談前夜(続)(2)第二章 「無意識」と民俗学	本の旅人 11-6, pp90-96
兵頭晶子	2005-06	大正期の「精神」概念 大本教と「変態心理」の相剋を通して	宗教学研究 79-1, pp97-120
大塚英志	2005-01	怪談前夜(5)民俗学と人相学	本 30-1, pp22-29
赤井敏夫, 橋本貴	2005-00	平井文書のマイクロ化ならびに電子化	人間文化 20, pp39-49
吉永進一	2005-00	大拙とスウェーデンボルグ その歴史的背景	宗教学研究 22, pp33-50
吉永進一, 野崎晃市	2005-00	平井金三と日本のユニテリアニズム	舞鶴工業高等専門学校研究紀要 40, pp125-134
王成	2004-12	近代日本における「修養」概念の成立	日本研究 29, pp117-145
	2004-12	特別企画 健康ブーム	第三文明 540, pp67-73
	2004-12	特別企画 健康ブーム	第三文明 540, pp67-73
長谷川晶子	2004-10	霊媒画家ジョセフ・クレバンを巡る二つの評論	千葉大学社会文化科学研究 9, pp51-65
四元正弘	2004-09	高齢化・気分・機能性・癒やし キーワードでみる健康ブーム盛衰史 (特集 健康ビジネス 成功の法則)	エコノミスト 82-51, p35
田中聡	2004-08	忍術と霊術 (特集 忍びの戦国誌) (忍者研究最前線)	歴史誌本 49-8, pp188-193
高田衛	2004-06	オカルト的世界は国文学の対象になりうるか (特集 国文学の死と再生)	ジャイロス 3, pp204-215
岡田正彦	2004-05	自己同一性のための他者 井上円了の「妖怪学」と近代的宗教意識	近代仏教 11, pp35-54
佐々木英昭	2004-03	催眠術から善種学へー平塚らいてうの「科学」的歩み(女性作家「現在」)	国文学 解釈と鑑賞別冊 15
小池社彦	2004-03	「肩塚写真」の魅力 霊と宇宙 (特集 いま、カメラが見つめる先 写真表現のトランジション) (第3部 写真社会のトランジション<移行>)	木野評論 35, pp158-166
光沢隆	2004-01	オカルトとオリエンタリズム 『月長石』における「千里眼」	歴史文化社会論講座紀要 1, pp93-107
小林康正	2004-00	「家」をつくる 「姓名学」・「乃木家再興問題」・「居所指定権」における姓名の近代	京都文教大学人間学研究 5
高橋直美	2004-00	井上円了の「妖怪学」序論	井上円了センター年報 13, pp57-69
針生清人	2004-00	井上円了の「妖怪学」	アジア文化研究所研究年報 39, pp1-6
大松一雄	2003-11	「牛券種」のルーツを求めて 悪しき伝承	飛騨春秋 514
金賢旭	2003-11	幻術考	超越文化科学紀要 8, pp212-189
サウタツヤ他	2003-09	日本における心理学の学範形成 東大・心理学実験室設立100年を迎えて	日本心理学会第67回大会シンポジウム
曾根博義	2003-06	異端の弟子 夏目漱石と中村古峽 (補遺)	語文 116, pp67-80
安斎啓郎	2003-03	霊感を科学する(51)妖怪玄談・狐狗狸の事	上方芸能 147, pp88-95
一柳廣孝	2003-03	心霊学 (特集 幻想文学研究のキーワード) (私のキーワード)	幻想文学 66, pp32-35
川本音一	2003-03	特別招待席 歴史に起因する現代怪奇超常現象説話 その顛末と数々の怪談奇談	歴史研究 45-3, pp76-87
見城祐治	2003-03	日露戦争～大正前期における「道徳」と「宗教」の思想的位相	日本史研究 487
小池社彦	2003-03	恐怖影像 呪いの心霊ビデオ補遺 (特集 幻想文学研究のキーワード) (私のキーワード)	幻想文学 66, pp66-69
サウタツヤ	2003-03	近代日本における心理学の受容と制度化	立命館人間科学研究 5
大塚英志	2003-01	怪談前後(6)第六章「私怪談」の時代	群像 58-1, pp314-339
佐藤達哉	2003-00	精神物理学実験室100年	心理科学ワールド 23, pp3-9
三浦正雄	2003-00	日本近現代怪談文学史<明治編>	山陽学園短期大学紀要 34
綱沢満昭	2002-12	近代日本における「修養」	文学・芸術・文化 近畿大学文学部論集 14-1, pp19-39
曾根博義	2002-12	異端の弟子 夏目漱石と中村古峽 (下)	語文 114, pp52-61
小田光雄	2002-09	古本屋散策6 中村古峽の出版	日本古書通信 878
曾根博義	2002-06	異端の弟子 夏目漱石と中村古峽 (上)	語文 113, pp26-39
	2002-06	「農産物」と「人」を生かす地域振興 ツチノコの里の村づくり 岐阜県東白川村 村ぐるみの農産加工と交流事業,遊休農地対策	地上 56-6, pp8-15
	2002-06	「農産物」と「人」を生かす地域振興 ツチノコの里の村づくり 岐阜県東白川村 村ぐるみの農産加工と交流事業,遊休農地対策	地上 56-6, pp8-15
上高誠	2002-03	ツチノコと渡来人	日本文化史研究 34, pp85-98
吉永進一	2002-03	神智学と日本の霊的思想(2)	舞鶴工業高等専門学校紀要 37, pp134-144
門傳仁志	2002-01	見世物興行の戦後と現状 興行師の動向を中心として<特集>文化人類学の現代的課題	哲学 107, pp277-292
奥山文幸	2002-00	「幽霊写真」というフレーム 「春と修羅」第二集と「銀河鉄道の夜」<特集>絵画・写真・映像 像と文学の近代	日本文学 51-11, pp23-32
久野康彦	2002-00	スピリチュアリズム・神智学と19世紀末～20世紀初頭のロシア文学	ロシア語ロシア文学研究 34
李勝弦	2002-00	柳宗悦における宗教と芸術 初期の思想と実践を中心に	東京大学宗教学年報 20, pp89-105
中山崇之輔	2001-12	巷説から版物語(十二) 「狐狗狸」古い古今一こっくりさん流行事歴	日本古書通信 66-12(369), pp6-9
林影	2001-12	近代日本における修養思想 明治期ジャーナリズムを中心に (東京歴史科学研究第35回大会個別報告)	人民の歴史学 150, pp12-21
一柳廣孝	2001-11	心霊を教育する つのだじろう「うしろの百太郎」の闘争 (特集「文学」と「サブカルチャー」の社会学)	日本文学 50-11, pp30-38
大山正, 佐藤達哉	2001-11	「近代」心理学か「現代」心理学か:元良勇次郎の心理学史上の位置づけ 西川(1999),溝口(2000)両論文に答える	心理学史・心理学論 3, pp21-28
佐藤達哉	2001-11	元良勇次郎の参禅体験とその余波 東洋的自我を心理学的に考える道	心理学史・心理学論 3, pp11-20
鈴木晶	2001-08	「神秘主義」が生み出される時代背景 (特集 神秘の心理学)	フシコ 2-8, pp22-27
山田賢二	2001-08	飛騨美濃人物往来(68) 口裂け女の伝説	月刊ぎふ 200, p17
曾根博義	2001-07/08	「殻」から「変態心理」へ 中村古峽の転身	文学 2-4
今枝久美子	2001-03	北海道での仮説お化け屋敷興行 ある興行主からの聞き取りより[含 写真]	国際文化論叢 1, pp33-42
吉永進一	2001-03	神智学と日本の霊的思想(1)	舞鶴工業高等専門学校情報科学センター年報 29, pp37-46

特別展「奇なるものへの挑戦 明治大正／異端の科学」について 参考文献リストと年表

著者	年月	タイトル	掲載誌
岩井洋	2001-00	(近代) 記憶装置の誕生	日本研究 23
児玉齊二	2001-00	西周の「心理学」と顔永京の「心霊学」	日本大学心理学研究 22, pp1-10
高橋直美	2001-00	井上円了と妖怪学の現在	井上円了センター年報 10, pp97-118
西川泰夫	2001-00	わが国への心理学の受容と定着過程を担った先達たち 外国留学,並びにわが国の教育機関との関わりから	心理学評論 44-4, pp441-456
三浦節夫	2001-00	井上円了の妖怪学 その提唱と展開	井上円了センター年報 10, pp65-96
宮本拓海	2001-00	NEWSY ANIMALS 動物事件の読み解き方(6)兵庫県美方町ツチノコ捕獲事件	リテアト 3-3, pp60-63
丁雷	2000-12	近代日本の対中医療・文化活動 同人会研究(4)	日本医史学雑誌 46-4, pp613-639
山縣孝式	2000-12	「口裂け女」再考 しあわせのハナシはありますか	京都民俗 18, pp85-106
小阪登	2000-10	人情駐在所の事件簿 未来へ語り継ぐもの(第4話)ツチノコ騒動	月刊警察ヴァリエーション 18-10, pp70-74
曾根博義	2000-10	中村古峽研究事始	日本古書通信 855
宮本直和	2000-10	子供・大人のアイデンティティと「学校の怪談」の流行について	世間話研究 10, pp241-252
橋爪紳也	2000-09	続・「仕掛け」からの都市論 環境の演出力(3)お化け屋敷再考	レジャ・産業資料 33-9, pp184-187
紅野敏郎	2000-06	中村古峽 二冊の 殻	国文学 解釈と鑑賞 65-6
萩尾重樹	2000-04	研究討論会「福来友吉の業績を巡って」(第32回日本超心理学会(1999年))	日本超心理学会誌 超心理学研究 5-1, pp17-36
	2000-04	史料20世紀 3 「口裂け女」	東海の夜明け 28, pp9-10
渡辺巖太郎	2000-02	健康マネジメント(51)近代健康ブーム	金融財政事情 51-6, p17
飯直行	2000-00	実験心理学の誕生と展開-実験機器と史料からたどる日本心理学史-	京都大学出版会 345
高木史人	2000-00	研究者というメディア	口承文芸研究 23
宮川雅	2000-00	アメリカ文学とオカルト 史的素描(1920年代まで)	法政大学文学部紀要 46, pp39-73
宇坂直行	1999-12	実験心理学写真帖 にみる明治期の心理学実験と古典実験機器	心理学評論 42-3
恩田彰	1999-12	研究討論会 福来友吉の業績をめぐって	日本超心理学会大会発表論文集 32, pp18-22
佐々木浩一	1999-12	二大霊術について 太霊道と天神道霊術(シンポジウム 失われた「霊術」の時代を振り返る)	日本超心理学会大会発表論文集 32, pp25-27
志水一夫	1999-12	シンポジウム 失われた「霊術」の時代を振り返る	日本超心理学会大会発表論文集 32, pp23-29
立花隆	1999-12	私の東大論(19)山川健次郎と超能力者・千里眼事件	文芸春秋 77-12, pp356-369
西川泰夫	1999-12	実験心理学における歴史的心理学実験機器をめぐって 大山・佐藤論文へのコメント:ア クロン大学アメリカ心理学史資料館,ハーバード大学歴史的科学機器コレクションでのレ ビューならびに見聞記と一心理学徒の回想から(日本の心理学 源流と展開(2))	心理学評論 42-3, pp313-325
	1999-12	シンポジウム 失われた「霊術」の時代を振り返る	日本超心理学会大会発表論文集 32, pp 23-29
菊池聡	1999-09	オカルト・超常現象を<懐疑>する	月刊百科 443, pp67-74
高砂美樹	1999-09	1945年までに海外の専門誌に掲載された日本人心理学者の論文	心理学史・心理学論 1, pp31-35
池田清彦	1999-07	教育の回廊 人はなぜオカルトを信じるのか	初等教育資料 706, pp42-45
野崎和生	1999-03	地域からの発信 奈良県下北山村 ツチノコで村おこし	地方財政 38-3, pp340-347
菊池聡	1999-01	世紀末オカルト幻想を振り返り 予言の年1999年を迎えて	中央公論 114-1, pp279-289
大山正, 佐藤達哉	1999-00	東京大学における心理学古典実験機器について	心理学評論 42, pp313-325
越野剛	1999-00	ロシア文学とメスメリズム	ロシア語ロシア文学研究 31
曾根博義	1999-00	中村古峽と 殻	日本大学文理学部人文科学研究紀要 57
西川泰夫	1999-00	日本の現代心理学形成にかかわる学問史的検討	心理学史・心理学論 1, pp1-7
一柳廣孝	1998-09	「麻酔」と「魔睡」のあいだには一催眠術の照射する日本の近代	LISA 5-9, pp89
唐沢俊一	1998-08	漱石とオカルト 怪談噺を通して(総特集 怪談)	ユリイカ 30-11
木村重樹	1998-08	ヴィジュアル・フェティッシュ 心霊写真VSアイコラ	ユリイカ 30-11
小池社彦	1998-08	怪談史の課題 メディア史との関連で	ユリイカ 30-11
長山靖生	1998-06	臨外を悩ませた明治のオカルトブーム	新潮45 17-6, pp130-146
曾根博義	1998-03	中村古峽と「変態心理」	語文 100
吉永進一	1998-03	オカルトとニューエイジ 一種の思想史として(II「精神世界」のありさまをとらえる,ワー クショップ(1)「精神世界」の構図 現代社会と現代人の意識を理解する手がかりとして)	宗教と社会 別冊, ワークショップ報告書 1997, pp16-22
志水一夫	1997-12	「苦手」考 日本療術的接手法小史(2)	日本超心理学会大会発表論文集 30, pp1-8
村瀬学	1997-12	封じられた記憶術 記憶術の中の経歴(特集号 経験と臨床心理学を考える)	臨床心理学研究 35-3, pp36-45
柿田睦夫	1997-10	科学の散歩道 オカルトと「信じる」世代	前衛 691, pp158-160
ベッカC.	1997-10	いままぜ臨死体験なのか オカルト・ブームを越えて(特集「来世」の探求)	仏教 41, pp2-5
中田潤	1997-09	人間の「闇」の領域に迫る異色オカルト論考 「こっくりさん」はなぜ不滅なのか	現代 31-9, pp298-305
鶴岡正樹	1997-07	人間ポンプとその時代	へるめす 67
一柳廣孝	1997-06	心霊学の開祖 福来友吉(日本の巨人・超人・傑物大図鑑)(民間学の巨人たち)	歴史読本 42-6, pp160-167
紀田純一郎 横田順弥	1997-06	明治「巨人」曼陀羅 人材輩出装置 明治時代の魅力	歴史読本 42-6, pp26-40
津田真人	1997-03	「健康ブーム」の社会心理史 戦前篇	一橋論叢 117-3, pp445-463
Robert Jean-Noël, 前田耕作,松枝到	1997-03	オカルト・法華経・仏教研究(鼎談)	象徴図像研究 11, pp99-107
鎌田正裕	1997-02	オカルト科学と理科教育	学習研究 365, pp66-69
山田賢二	1997-02	超能力,三田光一現る(下)(飛騨美濃人物)	月刊ぎふ 146, p16
山田賢二	1997-01	超能力,三田光一現る(上)(飛騨美濃人物)	月刊ぎふ 145, p16
加藤秀明	1997-00	現代における憑きもの俗信「牛蒡種(コンボタネ)」	ぎふ精神保健 34
S.バンス	1997-00	取り憑かれた身体から監禁された身体へ 精神医学の発生	江戸の思想 6
松村浩二	1997-00	養生論的な身体へのまなざし	江戸の思想 6
志水一夫	1996-12	日本「療術的接手法」小史	日本超心理学会大会発表論文集 29, pp5-13
一柳廣孝	1996-07	大正期心霊学受容の諸相-高橋五郎・精神分析・霊術	名古屋大学国語国文学 78
一柳廣孝	1996-06	芥川龍之介・幽霊・心霊学	幻想文学 47, pp122-127
一柳廣孝	1996-04	近代日本の催眠受容をめぐって	催眠学研究 40-1/2, pp1-7
一柳廣孝	1996-04	明治期刊行の心霊学関連書籍とその周辺	名古屋近代文学研究 13
上杉義彦	1996-01	井上円了の思想 「妖怪学」と仏教論の接点	真宗研究 40, pp1-13
加藤秀明	1996-00	現代における憑きもの俗信「牛蒡種(コンボタネ)」	ぎふ精神保健 33-2
古田島洋介	1996-00	森鷗外と記憶術	比較文学研究 69, pp134-143
一柳廣孝	1995-09	ドラッグ・心霊 森鷗外「魔睡」を視座として 催眠術の世紀末(明治世紀末 イメージの 明治<特集>)(メタファーの世紀末)	國文學 解釈と教材の研究 40-11, pp77-81
一柳廣孝	1995-09	メタファーの世紀末(ドラッグ・心霊)-森鷗外「魔睡」を視座として 催眠術の世紀末	国文学 40-11
今泉寿明	1995-06	「こっくりさん」に関する社会心理学的調査 1930年代から1992年までの流行史	宗教と社会 1, pp29-48
岩井洋	1995-03	近代日本における記憶術の流行	国学院大学日本文化研究所紀要 75, pp57-83
一柳廣孝	1994-12	明治期催眠術書刊行目録・覚書	名古屋近代文学研究 12
一柳廣孝	1994-09	深層の近代 明治期の心霊学受容をめぐって(3)	人文科学論集 52
横山泰子	1994-03	井上円了の妖怪学 その発想と方法について	アジア文化研究 20, pp63-74
一柳廣孝	1994-02	深層の近代 明治期の心霊学受容をめぐって(4)	人文科学論集 53
岩井洋	1994-00	和田守菊次郎と記憶術 近代日本における記憶術の誕生	國學院大学日本文化研究所紀要 73, pp93-118
五十殿利治	1994-00	もうひとりの「ハウンド」の作家 久米民十郎に関する新資料について	筑波大学芸術年報 1994, pp6-9
尾室修司	1994-00	「霊術系新宗教」の再検討	西日本宗教学雑誌 16, pp92-100
道下淳	1994-00	念写と透視・千里眼	篝火 70, pp12-13
一柳廣孝	1993-12	「千里眼事件」と名古屋新聞	名古屋近代文学研究 11

著者	年月	タイトル	掲載誌
清水義和	1993-12	“こつくりさん”ショーの、傷心の家の場合	愛知学院大学教養部紀要 41-2, pp39-48
一柳廣孝	1993-07	(科学)の行方―漱石と心霊学をめぐって	文学 4-3
一柳廣孝	1993-02	深層の近代 明治期の心霊学受容をめぐって(2)	人文科学論集 51
一柳廣孝	1992-12	一郎とスピリチュアリズム   行人   一面	名古屋近代文学研究 10
一柳廣孝	1992-09	深層の近代 明治期の心霊学受容をめぐって(1)	人文科学論集 50
橋本裕之	1992-08	騙りのパフォーマンス―幻術・外術・幻戯	変身する 47
小池淳一	1992-05	信じること、そして知ること 民俗学における宗教・信仰研究1987~91	日本民俗学 190
筒井清忠	1992-02	近代日本の教養主義と修養主義 その成立過程の考察 (歴史・表象・文化 歴史社会学と社会史)	思想 812, pp151-174
前島康男	1992-01	現代天皇制とオカルト・ブーム 「人間の力を越えたものに対する畏敬の念」概念を手がかりにして(その2)	熊本大学教養部紀要 人文・社会科学編 27, pp47-65
野村純一	1992-00	平成版”口裂け女”事情	歴史読本 37-19
真井上光郎	1991-04	真実かトリックか 「千里眼」と「念写」事件(ある心理学者の記録)	カメラレビュー 17-1
斎藤修平	1991-03	噂のフォークロア 口裂け女の伝承覚え書	埼玉県立民俗文化センター研究紀要 7
前島康男	1991-01	現代天皇制とオカルト・ブーム 「人間の力を越えたものに対する畏敬の念」概念を手がかりにして(その1)	熊本大学教養部紀要 人文・社会科学編 26, pp13-32
會津信吾	1990-08	人体エレキを掛けて御覧に入れやす 明治期催眠術文献渉猟 (特集:催眠術)	イマーゴ
井村宏次	1990-08	精神の威力 近代日本オカルト衝動のルーツ (特集:催眠術)	イマーゴ
川村邦光	1990-08	醒める魂 催す魂 催眠術と近代日本 (特集:催眠術)	イマーゴ
南博	1990-03	心霊スキャンダル 福来友吉の悲劇 (特集:超心理と気の科学)	イマーゴ
前田寛男	1990-02	24. 流言”口裂け女”の正体 催眠分析の症例からみた少女の深層心理(第13回日本心身医学会近畿地方会議抄録)	心身医学 30-2, p182
立川昭二	1989-10	健康をどう考えてきたか 江戸・明治そして現代 (健康ブームを越えて<特集>)	教育と医学 37-10, pp934-940
鎌田東二	1989-01	オカルト漫画隆盛の深層	知識 85, pp261-268
作道信介	1988-06	若者のオカルトブームと新々宗教の接近	青少年問題 35-6, pp14-21
	1988-06	ツチノコで村おこし(現地ルポ) (ニッポン「幻の動物」記<特集>)	科学朝日 48-6, pp14-19
伊藤俊治	1988-03	越境する鏡 サルベトリエールの写真図像学	ユリイカ 20-3, pp116-141
永瀬唯	1988-03	心霊の肖像写真 写真装置と心霊術 (写真の誕生 写真は人間をどう変えたか?<特集>)	ユリイカ 20-3, pp183-195
西山茂	1988-03	霊術系新宗教の台頭と2つの「近代化」	国学院大学日本文化研究所紀要 61, pp85-115
田中暁	1988-00	トーマス・マンのオカルト体験	言語文化研究 14, pp329-348
飯沢耕太郎	1987-11	隠されたものの写真史 (スーパー・ネイチャー・オカルトと抽象)	美術手帖 587, pp82-88
大浦啓裕	1987-11	オカルティズムの伝統と抽象絵画の夜明け (スーパー・ネイチャー・オカルトと抽象)	美術手帖 587, pp36-51
根本順吉	1987-03	科学者をめぐる事件ノート-3-山川健次郎 千里眼事件	科学朝日 47-3, pp68-73
栗原彬, 丸山照雄, 柴田四郎	1986-08	若もの・宗教と現代社会 オカルト的なものへの憧れは、なぜ	エコノミスト 64-35, pp102-109
	1986~88	つちのこ探偵団 1~35	西美濃わが街 104~139
井上順孝	1985-02	さらばオカルト・ブーム	東京大学宗教学年報 別冊2, pp12-13
河上一雄	1985-00	飛騨における民俗宗教研究への序説-コンボ	飛騨史学 6, pp50-56
岡谷公二	1984-08	「妖怪談義」の周辺 (妖怪学入門<特集>)	ユリイカ 16-8, pp68-73
小田晋	1984-08	幽霊と精神病理学 (妖怪学入門<特集>)	ユリイカ 16-8, pp158-164
内藤正敏	1984-08	怪火と科学 不知火の場合 (妖怪学入門<特集>)	ユリイカ 16-8, pp182-193
竹本忠雄	1984-01	ニューサイエンスと東洋 ホログラフィックな結びつき	現代思想 12-1
細野由美	1983-01	ゴンボダネ事例	常民文化 6
細野由美	1980-03	憑きものに関する一考察 飛騨のゴンボダネをめぐって	常民文化 3
田原総一朗他	1979-09	なぜ風説”口裂け女”が走ったか 楽しんだ子どもたち, 抑えた大人たち (あなたと超感覚の世界<特集>)	月刊教育の森 4-9, pp32-45
深作光貞	1979-09	常に消えない日本人のアミニズム “口裂け女”が駆け回った裏で (あなたと超感覚の世界<特集>)	月刊教育の森 4-9, pp24-31
石毛拓郎	1979-08	「口裂け女」と時の退却現象(詩時評)	新日本文学 34-8, pp96-99
	1979-05	日本にいた世界一の記憶術家 (記憶のメカニズム<特集>)	科学朝日 39-5, pp43-45
野中涼	1979-03	静坐の創作方法	比較文学年誌 15
(桑谷正道)	1976~81	のつち考 史滴余話 (1)~(60)	飛騨春秋 21-5~26
山田和夫	1974-09	「オカルト」映画のブームについて 「エクソシスト」などを中心に(映画時評)	文化評論 158, pp136-139
吉田光邦	1974-09	オカルトとアル・ヌーボ (工芸史雑筆-19-)	日本美術工芸 432, pp66-73
河村望	1974-08	科学と呪術 最近のオカルト・ブームについて (現代社会と科学(特集))	文化評論 157, pp52-61
宮原祥平	1974-08	悲合理主義と科学の立場 オカルトの流行に関して (現代社会と科学(特集))	文化評論 157, pp43-51
井上俊	1974-07	オカルト・ブーム考	展望 187, pp8-11
大下美和子他	1974-06	“四次元世界”からのメッセージ (現代オカルト考(特集))	潮 180, pp324-339
藤田昌司	1974-05	オカルト大流行 合理主義の袋小路を破るか?	学校図書館 283, pp63-65
大谷宗司	1974-03	福来友吉博士の透視・念写研究	防衛大学校紀要 28
松村憲一	1973-12	近代日本の教化政策と「修養」概念 蓮沼門三の「修養団」活動	社会科学討究 19-1, pp1-26
王丸勇	1973-11	史上人物のカルテ 幻の大蛇とツチノコ(病跡学漫語-13-)	臨床科学 9-11, pp1494-1496
森啓次郎	1973-10	山奥の溪流をのりかや原にツチノコ (ナゾの動物はいら? (特集))	科学朝日 33-10, pp39-41
森長英三郎	1973-03	飯野吉三郎恐喝事件 青山隠田の怪行者(史談裁判=第4集-6-)	法学セミナ 208, pp94-96
和達清夫	1973-03	念写夫人 丸亀千里眼実験顛末	心 26-3, pp18-25
薄田司	1971-09	ある記憶術家の心理	自然 26-10, pp76-79
辻村明	1970-07	現代の祭りとお化け屋敷 (EXPO'70人間と文明(特集))	美術手帖 330, pp52-58
羽鳥一英	1970-05	川端康成と心霊学	国語と国文学 47-5, pp26-53
鷹津義彦	1969-09	新興宗教の季節 近代化の仮面	日本文学 18-9
葛谷利春	1967-00	ごんぼだね考(1)~(5)	飛騨春秋 12-2~7
成瀬正勝	1960-01	白樺派文学の背景としての柳宗悦の論文	国語と国文学 37-1
代情山彦	1958-00	のつち	飛騨春秋 24, pp5-8
小林幹	1957-00	のつち(蜘蛛)	飛騨春秋 1,2 pp17-19
清水新太郎	1957-00	小林先生の「のつち」について	飛騨春秋 13, pp26-27
堤三郎	1957-00	こつくりさま	飛騨春秋 12, p9
堤三朗	1957-00	ごんぼだね	飛騨春秋 12, pp28-30
富田今禾	1957-00	思いのままに「のつち」のこと	飛騨春秋 13, p26
編集部	1957-00	「のつち」について	飛騨春秋 14, p26
河野与一	1956-05	記憶術の話	図書 80
福田恒存	1952-12	幽霊訪問記 降霊術を斬る	文芸春秋 30-17, pp174-180
結城祥山	1951-00	犬神・狐憑・牛蒡種	しらゆみ 9, pp19-23
伊藤逸平	1950-10	幽霊写真叢談	光画月刊 11-4, pp299-300
伊藤金次郎	1949-05	怪行者飯野吉三郎	伝記 3-4, pp10-17
水島紀男	1935-00	江戸時代に於ける美濃の見世物興行	美濃国郷土史壇 1-6, pp2-8
福井薩男	1926-05	科学より見たる所謂心霊術	学習研究 5-5, pp295-303
鷲瓶子	1922-00	喜田博士の牛蒡種観に就て	飛騨史壇 7-7, pp12-14
中山太郎	1921-00	牛蒡種私見	飛騨史壇 6-2~3
福来友吉	1915-00	郷土の記憶 図(飛騨の印象(福来 友吉他))	飛騨史壇 2-1, pp1-17

表4 関連新聞記事

連載	紙面	時期
郷土の誇り 精神界の惑星 熊崎健翁氏(1)	岐阜夕刊	19370926
郷土の誇り 精神界の惑星 熊崎健翁氏(2)	岐阜夕刊	19370927
郷土の誇り 精神界の惑星 熊崎健翁氏(3)	岐阜夕刊	19370928
郷土の誇り 精神界の惑星 熊崎健翁氏(4)	岐阜夕刊	19370930
*怪魚、町に侵入	朝日朝刊	19780511
顕彰碑 恵那市 故喜多広行さんの慰霊碑	中日夕刊	19870824
300年ぶり桃太郎神社再建 加子母村 地区民が浄財募り	中日朝刊	19900825
飯野吉三郎	朝日朝刊	19440204
無欲 霊験あたらか 風変わりな柳津の竜神さま	岐阜夕刊	19520108
民間信仰と迷信 損妻郡下に「壺坂靈験記」現代版信仰で眼病	岐阜夕刊	19521214
竜谷臥石 俗世捨て仙人生活	岐阜夕刊	19540724
死田にも実りの秋 たり恐れず耕す 岐阜市	岐阜夕刊	19541009
美濃の幽霊 吉岡勲氏	岐阜朝刊	19550711
山の怪談つれづれ 後藤芳雄	岐阜朝刊	19560727
幽霊と色ごと 渡辺路雪	岐阜夕刊	19570829
怪物体 多数の目撃者 タイダイ色の光 一瞬	岐阜朝刊	19571111
月曜随想 幽霊と犯罪 石木忠雄	岐阜朝刊	19580804
奇術 中村克己	岐阜朝刊	19581211
乗鞍仙人故板殿正太郎さんの碑建立	岐阜朝刊	19620603
長良川に怪物 オットセイの迷子?	朝日朝刊	19650711
ふるさと夜話 里帰りの怪獣	朝日朝刊	19720816
奥美濃の秘境で幻のツチノコ捜し	朝日朝刊	19730517
ツチノコは石がきを登る 美濃市の目撃者	岐阜朝刊	19730807
ツチノコまた出た 高富町で評判	岐阜朝刊	19730819
ツチノコ見た 可児町の高野さん	中日朝刊	19730915
幻の動物 ツチノコ 古事記にも登場	岐阜朝刊	19730926
幻の動物 ツチノコ 学問的データなし	岐阜朝刊	19730927
福来記念館「超能力」モテモテ時代 人気集	毎日朝刊	19740423
各地で幽霊さわぎ オカルトブームの余韻か	朝日朝刊	19751019
ツチノコかへびか 可児町神崎山古墳での話	中日朝刊	19760623
またツチノコ騒動 美山町	岐阜朝刊	19760920
幻のへび ツチノコ見た 美濃市の主婦 想像	中日朝刊	19760925
板殿忠治 板殿仙人の子孫	岐阜朝刊	19780103
鳥類 やはらツツミ 多治見新興住宅の怪音 丹	岐阜朝刊	19780513
爬虫類 ツチノコ探し回る研究会 美山町	中日朝刊	19780706
岐阜で生まれた口裂け女 騒ぎやと下火へ	岐阜夕刊	19790615
濃飛文学100話 81 ツチノコ騒動	岐阜朝刊	19790829
「白鳥春秋」に口裂け女など満載	岐阜朝刊	19790913
顕彰碑 恵那市 田中守平顕彰碑30周年記念式典	中日朝刊	19810412
岐阜市の夫婦ツチノコ目撃か	中日朝刊	19810826
武儀町乳岩神社の整備終わる	中日朝刊	19850214
テレビ 朝日テレビ「飛騨高山に女の幽霊を見た」高	中日朝刊	19850518
幻のへび ツチノコ探偵団結成 ミニコミ誌西	朝日朝刊	19860101
「西美濃わが街」集められたつちのこ探偵団(タ	毎日朝刊	19860506
加子母村 つちのこの木工製品売れ出す	中日朝刊	19861109
木曾三川治水 100周年記念事業 ぎふ河童まつり	岐阜朝刊	19870717
岐阜のへび伝説 長倉三郎さんに聞く たり	岐阜夕刊	19880101
伝説の奇岩鼠石 上室村の村道沿いに引越	岐阜朝刊	19880104
土屋斉 河童連邦共和国名誉顧問	岐阜夕刊	19881122
ツチノコ捜し 東白川村が懸賞金100万円	毎日朝刊	19890115
東白川村 ツチノコグッズはバンとクッキ	朝日朝刊	19890212
映画ビデオ 映画「大霊界」で名演技の板取、洞戸村民	岐阜朝刊	19890215
洞戸村に大霊界 眼想の館 丹波哲朗さん建設	毎日朝刊	19890302
ツチノコ探し約170人が申し込み	朝日朝刊	19890411
夜叉ヶ池で村おこし 伝説道中祭	毎日朝刊	19890429
ツチノコ捜して山里大フィーバー 全国から2	毎日朝刊	19890504
加子母村 ツチノコ下駄で村おこし	岐阜朝刊	19890827
映画ビデオ 最後のゴジラキッ 怪獣造形師 岐阜市の	岐阜夕刊	19891219
村からのレポート 3 東白川村 ツチノコ探し	中日朝刊	19900104
長良川かっぱ村設置を川沿いの関係者に機	中日朝刊	19900114
加子母村で300年ぶり桃太郎神社再建	中日朝刊	19900328
東白川村 ツチノコを探そう 5月5日に多彩な	朝日朝刊	19900428
東白川村に100人ツチノコ探し	朝日朝刊	19900506
みの河童村の発会式 河童連邦共和国	中日朝刊	19900613
河童まつりで無病息災祈る 岐阜護国神社 河	岐阜朝刊	19900729
可児市 鬼ヶ島よみがえる桃太郎伝説 用地	朝日朝刊	19900904
全国ツチノコ目撃者サミット 23日経川村で	朝日朝刊	19900908
遊歩人 92 東白川村の村おこしツチノコ	毎日朝刊	19901012
瑞浪市 瑞浪陶磁資料館で陶製河童展	中日朝刊	19910606
岐阜では20、21日河童サミット 22のかっぱ	毎日朝刊	19910717
緒方千徳 霊能者	岐阜朝刊	19910720
高山市勤労青少年ホームで超能力講座開設	朝日朝刊	19920423
東白川村 聖なるツチノコ捕獲作戦本腰(えん	朝日朝刊	19920502
土屋斉 河童連邦共和国大統領(夏とわたし)	朝日朝刊	19920822
岐阜市でみの河童村 3人に文化勲章	朝日朝刊	19920901
恵那市にえな河童村が開村	朝日朝刊	19930319
東白川村につちのご館オープン	毎日朝刊	19930426
東白川村でツチノコ捜索大作戦	岐阜朝刊	19930501
恵那市 えな河童村の創立村民総会開く	読売朝刊	19930726
東白川村でつちのご捕獲ローラー作戦	岐阜朝刊	19940504
大垣市みの河童村で村民総会	読売朝刊	19940826
ぎふの仲間たち 河童会 上石津町	岐阜夕刊	19941001

連載	紙面	時期
美濃河童新作展・陶器 大垣共立銀行本店で	中日朝刊	19941125
みの河童村の支村が大阪に誕生	岐阜朝刊	19950330
堀野慎吉・岐阜市方県小教師「借成社夜のブ	岐阜朝刊	19950714
浅野彬 小学校で怖い話が大ブーム	岐阜朝刊	19950719
みの河童村の支村が大阪に誕生 大垣市で水	朝日朝刊	19950823
白川町の廃校で映画「学校の怪談2」のロケ	中日夕刊	19960402
東白川村で「つちのご捜索大作戦」	岐阜朝刊	19960503
下呂町にお化け屋敷登場 東宝映画「学校の	毎日朝刊	19960626
下呂町の合掌村 ハイテクお化け屋敷登場	朝日朝刊	19960704
白川町で「学校の怪談2」試写会	岐阜朝刊	19960704
「学校の怪談2」ロケ地の白川町で「学校	朝日朝刊	19960706
下呂町・合掌村にお化け屋敷「学校の怪談2	岐阜朝刊	19960719
下呂町・下呂温泉の合掌村	読売朝刊	19960904
お化け屋敷が大 今夏の入場者数 7万人を突破	朝日朝刊	19960704
恵那市・笠置山のピラミッド形ベテログラフ	岐阜朝刊	19961020
来日した米学者フランク・ジョセフ氏、調査	岐阜朝刊	19961020
岩村町の偉人・飯野吉三郎のはかま姿の写真	中日朝刊	19970318
岩村町出身の飯野吉三郎 揮毫の書染めた	岐阜朝刊	19970326
下呂町で映画「学校の怪談3」ロケ 児童や父	読売朝刊	19970330
下呂町 下呂小学校で学校の怪談3の映画ロケ	岐阜朝刊	19970413
東白川村 つちのご捜索大作戦 今年の賞金は	岐阜朝刊	19970516
下呂町 ロケが行われた 学校の怪談3 全国に	読売朝刊	19970619
映画「学校の怪談3」ロケ先の下呂町で上映	岐阜朝刊	19970706
岐阜市の岐阜護国神社で河童まつり 園児が	岐阜朝刊	19970707
「学校の怪談3」自作を歩く・金子修介	中日夕刊	19970718
日本土鈴館で河童の人形展	中日朝刊	19970824
岐阜市でみの河童村」の村民総会開催	中日朝刊	19970827
大垣市で平成9年度総会	岐阜朝刊	19970930
「河童連邦共和国」中部4県下合同懇親会、	岐阜朝刊	19970930
昭和54年 口裂け女 古里ぎふの20世紀「庶民の目」からたどる	岐阜朝刊	19990302
塩屋智和・茂和(高山市)兄弟が、コンピュー	朝日朝刊	19990409
多治見市で、陶製のカップを展示した「河童	中日朝刊	19990507
加子母村の「なめくじ伝説」を三年通し狂言	中日朝刊	19990623
下呂温泉で河童連邦共和国の「河童サミット	岐阜朝刊	19990809
ツチノコの里・東白川村が、田舎暮らし希望	中日夕刊	19990827
大垣市で「河童連邦共和国」みの河童村の	岐阜朝刊	19990831
平成元年 ツチノコ騒動	岐阜朝刊	19990914
萩原町の北中学校の進路講話で、下呂町の中 下呂町で給食	中日朝刊	19991110
会社を経営しながら、映画「学	中日朝刊	19991112
八百津町の伊佐治さんが、へび・ツチノコを	中日朝刊	19991112
瑞浪市のミュージアム中仙道で河童の焼物を	毎日朝刊	20000508
上室村の平湯温泉観光協会が白猿伝説を基に	中日朝刊	20000518
丹生川村で「両面宿禰」の巨大像を作る計画 アフリカ産「ピンガ	中日朝刊	20000709
という木を使い「円	岐阜朝刊	20000811
坂下町出身の怪奇漫画作家 伊藤潤二原作の	岐阜朝刊	20000828
怪奇漫画家・伊藤潤二	岐阜朝刊	20000828
大垣市でみの河童村」第10回村民総会、文	岐阜朝刊	20000831
富加町町営住宅で幽霊騒動	毎日朝刊	20001030
丹生川村で「両面宿禰」モニュメント除幕式	中日朝刊	20001105
富加町町営住宅の「怪現象」で町と入居者が 自治会が許可なく	読売朝刊	20001214
町有地に建立した慰霊碑を	毎日朝刊	20001218
1 2 幽霊騒ぎは風とともに…(富加町の町	中日朝刊	20001223
岐阜市の藍川小学校で怪獣「ゴジラ」が核廃	読売朝刊	20010103
東白川村・ツチノコ村おこし12年 明日の話をしよう	岐阜朝刊	20010609
下呂町でツチノコ騒動、抜け殻見つかる	岐阜朝刊	20010718
美濃加茂市で一時「ツチノコ」騒ぎとなった	岐阜夕刊	20020427
東白川村の「つちのこ」・神田卓朗(岐阜女 おもしろ岐阜学入門	岐阜朝刊	20020925
神岡町の町民有志が散策道「がおろの道」で	中日朝刊	20021029
神岡町の散策道「がおろの道」の開通記念イ	中日朝刊	20030513
「がおろの道」周辺でホテルを育てようNP 神岡・町づくりネットワ	中日朝刊	20030709
「花の会」が「がおろの道」沿いの湿地帯に「鈴	岐阜朝刊	20040509
東白川村でつちのごフェスタ グラフィック中濃	岐阜朝刊	20041121
飛騨市神岡町「がおろの道」完成祝い 多彩な 日曜はっとクラブ	岐阜朝刊	20050525
岩村町の偉人・飯野吉三郎を再評価 27日慰霊祭で顕彰	岐阜朝刊	20050520
生まれはGIFU 1「口裂け女」なぜ岐阜発	岐阜朝刊	20070504
つちのごフェスタ2007 東白川村で総勢500人	岐阜朝刊	20070529
垂井町青年クラブの35周年記念事業「河童	岐阜朝刊	20080111
笠松町民に親まれた火の見櫓「怪獣の塔」	岐阜朝刊	20100403
流行の「パワースポット」伊奈波神社、本で	岐阜朝刊	20100420
福来友吉心理学研の資料館「福来記念・山本	岐阜朝刊	20100504
つちのごフェスタ2010 東白川村	岐阜夕刊	20100605
ツチノコ探し20年 東白川村や新湯、今も脈	岐阜朝刊	20101121
「大日本精神団」を組織、恵那市岩村町出身	岐阜朝刊	20110109
郡上市和良「當地親和会」パワースポットで	中日朝刊	20110123
伊奈波神社「パワースポット」景気 総合学習ぎふ科	岐阜朝刊	20110504
ツチノコ見つけるぞ 東白川村で今年も大捜	岐阜朝刊	20110515
高山出身の心理学者 福来友吉	岐阜朝刊	20110622
本県市議会一般質問 パワースポット選定	岐阜朝刊	20120318
憂国、貧しい者の立場に 故郷に郵便局や駅誘致、「大霊道」創	岐阜朝刊	20120429
始の芸術家 田中守平	岐阜朝刊	20120429
ツチノコは神の化身? 「神道の村」信仰の	岐阜朝刊	20120429

表5 年表

西暦	和暦	月日	事項 ※日本国外の事項
1763	宝暦13	7月21日	佐賀県武雄市の池で龍が目撃される(「甲子夜話」)
1765	明和2	10月25日	相模国大田で雷獣
18世紀末～19世紀			※フランスで動物磁気催眠治療術が大流行
1781	安永10		鳥山石燕「今昔百鬼拾遺」
	天明1	8月	仙台商(隅田川東岸)の伊達屋敷堀内淵で河童が捕獲される(「耳囊」)
1791	寛政3	5月4日	若狭(福井県)大浜沖に大蛇落下
		5月末	因幡(鳥取県)に雷龍落下
1794	寛政6		越後新潟の香具師が河童
1801	享和1	5月10日	この頃、芸州九日市里へ雷獣が落下
		6月1日	水戸の東浜で河童が網にかかる
		7月21日	会津の古井戸に雷獣が落下
1802	享和2		淀川堤で河童が武士に手切られる(「奇談諸国便覧」) 琵琶湖竹生島に雷獣が落下
1805	文化2	5月6日	越中国放生淵(放生津)に悪魚が出現
1806	文化3	6月	播州赤穂に雷獣が落下
1823	文政6	8月17日	築地細川邸に怪獣が落下
1840	天保11	6月	櫛引道柳沢村で河童が捕獲される
1838	天保9		天理教立教
1848	嘉永1		※アメリカでフォックス家姉妹のホルター・ガイスト事件(ハイズ・ウィル事件)⇒近代スピリチュアリズム元年 ※マルクス、エンゲルス「共産党宣言」
19世紀後半			※欧米でテーブル・ターニングが流行
1854	安政1		※このころ、アメリカに300万人の降霊術愛好者、ブームはヨーロッパへ波及
1855	安政2		金光教立教
1860年代			※欧米で心靈写真が流行
1859	安政6		※ダーウィン「種の起源」
1861	文久2		※アメリカでウィリアム・H・マムラーが心靈写真 Spirit photography を撮る(1862発表)、世界初の心靈写真
1868	慶応4/明治1		神仏分離令
1870年代			※ヨーロッパでも降霊術が流行
1870	明治3	8～11月	苗木藩領で徹底した神仏分離(廃仏毀釈)
1871	明治4		このころからメソリズムが日本伝播
1872	明治5		※イギリスでF・A・ハードソンが心靈写真を撮る
		9月15日	修験道廃止令
1873	明治6	1月15日	梓巫子子憑祈禱狐下け禁止の件(教部省第2号達)
1874	明治7		医制発布、近代医学(西洋医学)を採用
		6月7日	禁厭祈禱を以て医薬を妨ぐる者取締の件(教部省通達第22号)
1875	明治8	6月7日	郡上郡八幡町・味噌玉より毛の生える怪
1876	明治9	3月14日	元大工町で定時に小石が降る、狐狸の仕業か(「東京絵入新聞」)
明治10年代			横浜の三田弥一が「幽霊の写真」を撮る、国産初の心靈写真か(1878-1879-1880説あり)
明治10～20年代			欧米から催眠術が輸入される、医学治療行為として、のち見世物芸として
1877	明治10		占い禁止令
		7月14日	不破郡大石村:サツマイモから栗の木生える(東京曙新聞)
		9月14日	房州天津(千葉県鴨川市)沖合で漁師が河童を目撃(「かなよみ」9/19)
1878	明治11		熊本鎮台の兵士が「幽霊の写真」を撮る、国産初の心靈写真か
		11月28日	球磨郡原田村で老人が河童と相撲を取る(「熊本新聞」)
1879	明治12		滋賀・三井寺に西南戦争第9連隊戦死者記念碑を建立
		3月4日	近江国長浜門前町古道具商で河童の皿を販売(「読売新聞」)
		7月31日	山口県下長門国豊浦に異獣が落下(「郵便報知新聞」)
1880	明治13		実利行者が恵那山落合道を開く(昭和30年代に廃道)
1882	明治15		熊本の実業家が幽霊の写真撮る ※イギリスで心靈研究協会 Society for Psychical Research 設立 このころから記念碑建立が流行
1882	明治15	10月11日	京都府鷹峯で天狗饅(「西京新聞」)
1883	明治16	12月	畝傍艦行方不明事件、畝傍艦＝行方不明の流行語に(1887亡失認定)
1883	明治16	2月9日	方県郡秋沢村:怪夢に出た胎内の子が母を殺す(郵便報知新聞)
		8月23日	羽栗郡直道村:雨を呼ぶ「雨石」(絵入朝野新聞)
		9月12日	高山:白狐の災で鎮師たちが同士討ち(絵入朝野新聞)
		10月3日	岩代国伊達郡長岡村の大沼で怪物退治(「開花新聞」)
		11月13日	大野郡三輪村:相撲興行に山が怒って陰火飛ぶ(郵便報知新聞)
1884	明治17		下田に上陸したアメリカ船員によってテーブル・ターニング(コックリさん)が伝わる(1883,1885とも)
		3月16日	大野郡丹生川村:夢のお告げで古銭の壺が出る(東京絵入新聞)
		4月21日	林実利が那智滝で入定
		夏	井上円了が妖怪学研究に着手、東京大学に「不思議研究会」を開設

西暦	和暦	月日	事項 ※日本国外の事項
1884	明治17	7月24日	島根県島根郡加賀村沖合で奇魚出現(「山陰新聞」)
1885	明治18		箕作元八「奇怪不思議ノ研究」でイギリス心靈研究協会を紹介 川田龍吉が催眠術の公開実験 ※アメリカに心靈研究協会設立 このころこっくりさん流行が始まる このころから馬島東伯が催眠術を治療に用いる
		4月11日	播磨国飾東(しきとう)郡長柄村で天狗の爪を掘り出す(「伊勢新聞」)
		8月27日	北海道札幌で河童が捕まる(「絵入自由新聞」)
		11月21日	新潟県下越後国中魚沼郡寺院小僧が天狗の使いと称する(「絵入自由新聞」)
1886	明治19	1月24日	東京大学「不思議研究会」(井上円了)第1回会合(～1919年)
		夏	コックリさん(降霊術)が流行(～1887) このころから宗教演説会(とくに仏教演説会)が興行化、政談演説会の影響
明治20年代			欧米から催眠術・交霊術が新知識として輸入され、「心靈」という語が定着 記憶術が流行 催眠術ブーム(第1次) 夏期講習会が流行、キリスト教関係から一般へ波及 このころ飛騨で天狗騒動(さられる)
1887	明治20		井上円了「妖怪学」、応用心理学で「心理療法」紹介 井上円了がこっくりさん占いの原理(自己催眠誘導)を解明 医学博士・大沢謙二が催眠術を導入 ※コナン・ドイルがスピリチュアリズムを知る このころ、宮地水位「異境備忘録」編集し直す
1888	明治21		元良勇次郎が東京帝国大学で精神物理学を講義
		2月1日	医科大学で四ッ谷養種屋秘蔵の魚骨を分析(「東京絵入新聞」)
		11月18日	浅草公園池之端の奇物観察所(見世物小屋)広告に鬼の首と腕(「東京朝日新聞」)
1889	明治22		筑後国柳川(福岡県柳川市)で河童が妙薬を伝える(「夜窓奇談 全」) 平井金三らが神智学協会会長オルコットを日本に招請 ※ブラウアッキー「霊智学解説」The Key to Theosophy
1890年代			こっくりさんが流行
1890	明治23	5月28日	鬼の首と腕が見世物に(「東京朝日新聞」)
		7月29日	備後国或山中の寺院から鬼の石棺が出土(「福井新聞」)
			漢方医・馬島東伯が催眠術病院を開設 この年から井上円了が全国で講演7113回(～1919)
1891	明治24		井上円了が妖怪学会を設立
1892	明治25		近藤嘉三「魔術と催眠術」 出口なおが大本教開教(神がかり) 東京帝国大学精神病学教室で催眠術・電気治療を実習 浜口熊蔵が実川行者について那智山で修行
		5月	夏目漱石が「哲学会雑誌」に「アーネスト・エイブラハム・ハート「催眠術といひさま」翻訳を掲載
1893	明治26		元良勇次郎が東京帝国大学で心理学・倫理学・論理学第一講座を担当 平井金三が世界宗教会議(シカゴ)に参加、その後、アメリカ各地で仏教講演・心靈科学実験に参加 このころ飛騨でごんぼだ騒動
		6月8・9日	「東京日日新聞」(のち毎日新聞)にイギリスの幽霊写真記事、いわゆる念写
		11月18日	大阪の見世物師が青森県八戸郡に(「東奥日報」)
1894	明治27		二宮尊徳の生地・小田原に報徳二宮神社が創建される 蛭川村に安弘見報徳社が設立される 軍人・中村環、小野福平が催眠術の医療効果を宣伝
		7月25日	日清戦争(～1895)
		9月	浜口熊蔵師・実川行者が入定、熊蔵は那智山を出て和歌山へ
1895	明治28		日清戦争(1894-95)後、清からの日本留学が流行
		夏	浴澤が流行、滝ブーム
1896	明治29		イギリス人落語家・石井ブラック(快楽亭ブラック)が催眠術興行 この年から浜口熊蔵が気合術で全国を巡業
1897	明治30		高島平三郎が催眠事件を演説 濱口熊蔵の気合術が無資格医療で訴えられるが、宗教行為とみなされ放免 古屋鉄石が大日本催眠術協会(のち精神研究会)を設立
明治30～40年代			「修養」ブーム
1898	明治31		泉鏡花「妖怪年代記」 出口王仁三郎が高熊山修行、福荷講社本部(静岡県清水)で鎮魂燔神法を学び、霊学会を設立
		3月～	泉鏡花「妖怪年代記」 出口王仁三郎が高熊山修行、福荷講社本部(静岡県清水)で鎮魂燔神法を学び、霊学会を設立
1899	明治32		教祖出口なおの招聘で出口王仁三郎が大本教入信、金明霊学会を設立 松村介石「修養録」、ベストセラーに 青森で幽霊の写真が撮られる 福来友吉が東京帝国大学卒業、同心理学教室に勤務 桑原俊郎が静岡師範学校漢文教師に 濱口熊蔵が違法治療行為で訴えられるが、気合術の実験で実効を認められる

特別展「奇なるものへの挑戦 明治大正／異端の科学」について 参考文献リストと年表

西暦	和暦	月日	事項 ※日本国外の事項
1899	明治32		中村古峽らが仏教清徒同志会(のち新仏教徒同志会)を結成
		11月	大阪区裁判所で浜口熊蔵の違警罪第一審公判
1900年代			催眠術が2度目のブーム、出版・通信教育が勃興
1900	明治33		精神病者監護法を制定
			小野福平が大日本催眠術奨励会(のち大日本催眠学会)を設立
		12月12日	長年南恵が神戸地方裁判所で神水を満たし無罪放免
1901	明治34		濱口熊蔵が東京で活動を始める
		5月22日	20年前、海軍将校がセイロンから「怪物の木乃伊(みいら)」を持ち帰る(「二六新聞」)
		9月12日	桑原俊郎が催眠術を始める
明治30年代後半～大正時代			日本各地で霊能者が輩出
1902	明治35		陶成章が東京滞在中に「催眠術自在」を発見、催眠術に興味を持つ
			実利教会に実利行者碑を建立、31講社(うち22が坂下付近)と41人が喜捨
			山口三之助が帝国催眠学会を設立
			福来友吉「心理学精義」、最初の著書
1903	明治36		この年以降、催眠術ブームが隆盛
			桑原俊郎が精神研究会を設立、「精神靈動第一編 催眠術」刊行
			平井金三・松村介石らが心霊的現象研究会(心象会)で活動
			竹内楠三「学理応用 催眠術自在」がベストセラーに、催眠術ブーム
			元良勇次郎が東京帝国大学文科大学に心理学実験場を設置
			柳田國男・田山花袋が帝国文庫「近世奇談全集」(博文館)編集校訂
		4月	呉秀三らが神経学会設立、東京帝国大学で神経学会総会、福来友吉「催眠の心理学的研究」発表
		5月22日	藤村操が日光・華厳滝で投身自殺、遺書「巖頭之感」で自殺者が追隨
		11月19日	田中守平が明治天皇に対露強硬策上奏を試み、郷里へ送還
			このころ催眠術の本格的な流行
1904	明治37		松橋吉之助が桑原俊郎門下に入る
			催眠術取締令
			宮地水位没、神送りで異変あり
		1月21日	法理研究会が福来友吉・塚原伝の催眠術実験
			報徳会(のち中央報徳会)が設立
			田中守平が恵那山で禱がる
1905	明治38	2月	法理研究会と十日医会が催眠術について共同研究を開始、月例研究会(～5月)
		3月	警視庁で催眠術に関する講演
		4月	天一一座がアメリカから帰朝
		6月	福来友吉「催眠心理学概論」
		9月	福来友吉「改修心理学教科書」
		9月	天一一座が帰朝公演、手品界に影響
		9月～	日露戦争(1904.2.05.9)後、報徳ブーム
		11月26日	二宮尊徳没後五十年祭、二宮尊徳翁五十年記念会
1906	明治39		福来友吉が「催眠術の心理学的研究」で文学博士号授与され、「変態心理学(異常心理学)」を講義
			松本亦太郎が京都帝国大学文科大学に心理学講座を創設
			桑原俊郎没
			中村古峽・森田草平が巢鴨病院・呉秀三が精神病学教室に通う
			中村古峽が東京帝国大学で福来友吉「催眠心理学を聴講
			E.S.スティヴィンソンがブラヴァッキー、「靈智学解説」を翻訳出版
			岡田虎二郎が上京、静坐を提唱
			藤田靈齋が精神学会を設立
		1月	田中守平が名古屋で大日本帝国青年会を設立
		3月	福来友吉「催眠心理学」
		5月	田中守平が児玉源太郎陸軍大將に蒙古探検隊組織を勧められる
		6月	児玉大將急逝により田中守平の蒙古探検が頓挫
		7月	福来友吉が東京帝国大学に「催眠の心理学的研究」を提出、同大文科講師を嘱託
			上海で会稽山人(陶成章筆名)「催眠術講義」刊行
		8月	福来友吉が文学博士の学位を授与される
明治40年代			欧米の近代スピリチュアリズムが日本へ波及
1907	明治40		松橋吉之助「思念術 諸病治療及諸法術原理」
		2月11日	雷電見世物広告(「都新聞」)
		7月	福来友吉「心理学講義」
1908	明治41		藤田靈齋「心身強健の秘訣」、のち皇室に献上
			田中守平が東京で大日本帝国青年会を再興
			福来友吉が東京大学助教授に就任
			催眠取締令(警察犯処罰令第2条19号)
		1月10日	井口丑二が蛭川村・安弘見報徳社新年会で講演
		5月12日	平井金三(東京外国語学校)の「心霊的現象研究会」第1回会合
		3月	森田草平と平塚明子(らいてう)心中未遂事件
		7月	福来友吉が御船千鶴子による透視実験

西暦	和暦	月日	事項 ※日本国外の事項
1908	明治41	8月	松本亦太郎が京都帝国大学に心理学実験室を開設
		10月	戊申詔書が發布され、地方改良運動が始まる
		11月	天理教が認可される
		12月	田中守平が逮捕、留置される(～1909年6月)
1909	明治42		洪江保(易軒)「原理応用 降神術」などで心写写真を紹介
			余萍客ら横浜在住の中国人らが中国心靈研究会(のち東京留日中国心靈研究会)を設立
			心理学通俗講話会を設立、元良勇次郎・松本亦太郎・福来友吉が顧問
			このころ、井上円了が無尽蔵「妖怪棚」「珍奇棚」で妖怪資料を展示
		1～5月	森田草平「煤煙」を東京朝日新聞に連載
1910年代			怪談が流行、心霊学が隆盛
1910	明治43		柳田國男が伝説の分類を発表
			二木謙三「呼吸健康法」
		2月	蛭川村が内務省から第1回「模範村」表彰される
		4月	福来友吉・今村新吉が熊本で御船千鶴子の透視実験
		6月	柳田國男「遠野物語」
		6月10日	田中守平が太霊道を完成
		9月14・17日	福来友吉が山川健次郎ら立ち合いで御船千鶴子の千里眼(透視)・念写実験「念写」と名付ける
		9月	田中守平「太霊道真典」脱稿、太霊道最初の教典
		9～10月	柳宗悦「新しき科学」で心霊学を紹介(白樺)
		11月6日	福来友吉が山川健次郎ら立ち合いで長尾郁子の念写実験、不正が疑われる(千里眼事件～1911)
		12月26日	長尾郁子が念写に成功
1911	明治44		竹内楠三「実験自在動物催眠術」(1904)が中国で翻訳刊行
			中国人留学生らが神戸で華僑催眠術研究社(のち中国精神研究会)を結成
			肥田春充 実験・簡易強健術
			新渡戸福造「修養」刊行、「講談倶楽部」創刊
			この年、岡田式静坐会は都内に百数十か所、会員2万人
		1月8日	長尾郁子の念写実験、不手際のため中止
		1月12日	長尾郁子の念写再実験
		1月13日	長尾郁子の念写再実験、妨害のため中断
		1月19日	御船千鶴子が自殺
		2月	長尾郁子が病死
		7月	田中守平が東京で東京霊理学会を設立
		9月	田中守平が辛亥革命(10月～1912年2月)前後の中国・朝鮮・満州・蒙古行(～1913)
		9月	岡田虎二郎が『実業之日本』に「岡田式静坐法」連載
		12月7～8日	高木敏雄が東京朝日新聞紙上で全国各地の伝説収集を呼びかける
			この頃、全国各地で千里眼能力者が出現(千里眼ブーム)
1912	明治45 / 大正1		幸田露伴「努力論」
		1月	初の専門誌「心理研究」発刊
		2月25日	内務省がキリスト教・仏教・神道の三教会同を実施
		4月	岡田虎二郎「岡田式静坐法」単行本化
		7月～12月	中村古峽「殻」を東京朝日新聞に連載
		11月22日	東亜文行「奇蹟の田中守平」(大連・満鮮実業社)のころから、健康法(岡田式静坐法、二木式複式呼吸法など)がブーム
			このころ田中守平が太霊道を創始
1913	大正2		福来友吉が高橋貞子の念写実験
			福来友吉「透視と念写」
			福来友吉が東京大学を休職(1915辞職=自然退職)
		1月28日	古屋鉄石が全国精神治療協会の(のち東洋心理協会)を設立
		2月	田中守平が帰国、宇宙霊学寮を設置
		3月2日	高橋貞子の念写実験
		4月	中村古峽「殻」
		4月27日	高橋貞子の念写実験
		5月10日	高橋貞子の念写実験
		7月6日	田中守平が東洋心理協会第2回実験及演説会で演説
		9月	『新小説』で特集「中村古峽氏著 殻」に就て
		10月28日	福来友吉東京帝大休職が報道される(萬朝報、東京日々新聞)
		12月～	田中守平が各地を巡業
1914	大正3		幸田露伴「修省論」
			※第一次世界大戦(～1918)
		5月	三田弥一「幽霊写真」が関西教育博覧会(岡山・中国日報社)で展示
		6月	田中守平が京都に宇宙霊学執務所を設置
		9月	福来友吉「念写と透視」
1915	大正4		井口丑二が安弘見報徳社で神道教創立の式
		3月	田中守平が衆議院議員に立候補して落選
		9月9日	井口丑二が蛭川村に移住
		10月	中村古峽が村上辰五郎に催眠術を学ぶ
1916	大正5		福来友吉「心靈の現象」
			「変態心理」「心理研究」誌上を中心に念写問題が再燃
		3・5月	田中守平が大坂に宇宙霊学寮臨時教習所を設置
		6月	田中守平が東京麹町に太霊道本院を設立、新聞広告を始める

西暦	和暦	月日	事項 ※日本国外の事項
1916	大正5	7月	実利行者33回忌、宝篋印塔に玉垣・戸扉を奉納
		10月	浅野和三部「余が信仰の径路と大本教」(「人文」大正5年10月号)
		10月16日	三田光一が大垣市で先進修業講演・心霊実験大会の裏側を念写
		12月	高橋五郎が大本教に入信、綾部へ移転
		12月9日	夏目漱石没
1917	大正6		上海で霊学会が発足 中国精神研究会が上海支部設立 福来が生命学会を設立 ※コナンドイルがスピリチュアリズム普及講演旅行を開始 ※ロシア革命
		4月16日	中村古峽が小説を断念、変態心理・精神医学研究専念を決意
		5月	中村古峽が日本精神医学会を設立
		6月	福来友吉宅で中村古峽の催眠術、森田正馬らが参加
		9月	中村古峽・森田正馬が長野県上諏訪で三田の念写を見る
		10月	日本精神医学会誌「変態心理」刊行(～1926年10月)
		11月	森田正馬が太霊道の講演会を聴講 このころ大本教が大正維新論を展開
			スペイン風邪流行
			東京留日中国心霊研究会が上海事務所を設立、のち本部に(1921)
			三田光一が岐阜市で念写実験
			4月21～28日
	11月6日	出口なおが昇天	
	12月6日	東京麹町の太霊道本部が焼失	
1919	大正8		「日本心理学雑誌」(京都)発刊 福来友吉が高野山で修行 精神病法施行 江間俊一(江間式身鍛練法)・松本道別(人体放射能療法)・田中守平(太霊道)が霊界倶楽部を組織
		1月	中村古峽が御岳教・大本教鎮魂帰神法の鑑定を依頼される
		4月	片桐龍子が岐阜裁縫女学校(のち岐阜女子高等技芸学校)を設立
		7月25日	田中守平と大本教の浅野和三部らが会見
		10月	友清歎真「鎮魂帰神の原理及び応用」
		11月	中村古峽「変態心理の研究」 このころから、機器療法・手技療法が普及
			片桐龍子が忠誠婦徳会を設立 内務省が大本教取締を全国に指令 岡田虎二郎急逝
		4月30日～	「霊媒派画家」久米民十郎が帝国ホテルで個展を開催(～5月1日)
		7月31日	田中守平が恵那郡武並村に太霊道恵那総本院を設立・移転
		8月～	中村古峽が大本教批判
		9月22日～	久米民十郎が佐藤久二と渡米、その後単身渡英(～1921年8月1日) このころ、森田正馬が森田療法を創始
1921	大正10		ドイツ映画「カリガリ博士」(1919)日本で公開 水野葉舟らが日本心霊現象研究会を結成 福来友吉が真言宗立宣真高女学校長に(～1926) 友清歎真「霊学筆跡」
		1月	雑誌「精神統一」創刊号
		2月	久米民十郎がニューヨークで個展
		2月12日	第一次大本事件
		5月	田中守平が真霊顕現(神託)を行う
		5月	神国教会堂が完成
		9月～	神国教が本部・北海道・東京・石川・静岡・長崎で霊術講習会を開催(～1924)
		12月27日	太霊道総本院(霊雲閣)が炎上
			太霊道夏期修霊大学を開催 浅野和三部が心霊科学研究会を発足
		4月	臼井養男が霊気療法を会得、臼井霊気療法学会を設立
		夏～	日本心霊学会が機関誌「日本心霊」を月3回刊行
1923	大正12		江馬勝「日本妖怪変化史」(中外出版) 後藤新平が太霊道総本院を訪問、郵便局・鉄道駅を誘致 東北帝国大学に心理学実験室ができる 神岡鉱業所に鞍馬山天狗の小使を名乗る老人があり、大火予言や治病を行った
		6月	浅野和三部が大本教を離れ、心霊科学研究会(のち日本心霊科学協会)を設立
		9月1日	関東大震災、久米民十郎が横浜で被災
			日本大学に私学初の心理学実験室ができる 浜口熊嶺が大坂に天命学院を設置(のち東京移転) 鈴木大拙とヘアトリスが神智学東京ロッジを設立
1924	大正13		林忠次郎が臼井養男より霊気を伝授され師範となる 片桐龍子が岐阜実科高等女学校を設立 太霊道総本院の最寄りに国鉄駅が開設される
		2月	臼井養男が霊気道場を中野区に新築
		7月11日	浅野和三部が綾部を去る

西暦	和暦	月日	事項 ※日本国外の事項
昭和初期			「文化」が流行語に
		1926	大正15 / 昭和1
		3月	臼井養男が広島県福山で客死
		8月～	田中守平が長崎で亜細亜民族大会に出席、その後、講演巡業
1927	昭和2		西勝造が西式健康法を創始 日本心霊学会が人文書院に改名 福来友吉「観念は生物なり」 田中守平顕彰碑を建立
		1月～	田中守平が福岡で太霊道電子術実験会を開催
		11月	片桐龍子が雑誌「御国の華」を創刊
		12月	田中守平が満洲鉄道クラブ・旅順中学校で講演
1928	昭和3		三井甲之「てのひら療法」がベストセラー 福来友吉が大日本心霊研究所(のち敬神崇祖協会→むすび協会)を設立 永島真雄「手相の神秘」以降、実業之日本社「○○の神秘」シリーズ(～1932)がヒット、古いブームに 清水英範が大日本精神医学会、横井無隣が日本心療師会を設立 霊界廓清同志会「破邪顕正 霊術と霊術家」二松堂書店 大日本心霊研究所(のち福来心理学研究所)を開設、福来友吉が所長に
		1月	田中守平が台湾日日新聞本社で講演
		3月	福来友吉が第3回国際スピリチュアリスト会議(ロンドン)で念写研究を発表
		9月	田中守平が名古屋で講演中に倒れる
		12月14日	中村古峽が千葉に中村古峽療養所を開設 福来友吉「精神統一の心理」 この年、臼井霊気療法学会の会員7000人、支部60ヶ所
		1月17日	田中守平が名古屋で客死
		11月29日	療術行為二間スル取締規則(警視庁令第43号)、以後、霊術が衰退
		6月24日	清水英範が大日本心療師会を設立
		6月23日	片桐龍子が忠誠婦徳会選抜会員による短期講座・国華学園を開設 小川惟精らが日本治療師会(のち全国療術協同組合)を設立
		12月	土井晩翠長女照子が没する 福来友吉「心霊と神秘世界」 ※イギリス・ネス湖のネッシー写真が報道される
1933	昭和8	9月9日	土井晩翠長男英一が没する
		11月12日	三田光一が岐阜市公会堂で念写の公開実験、月の裏側を念写
			片桐龍子が皇華聖道会を設立、雑誌「道の華」発刊 土井晩翠が心霊科学研究会へ入会 中村古峽療養所開設 福来友吉「弘法大師の神秘主義」
		12月28日	第二高等学校短艇部が松島湾で遭難、霊媒が遭難者捜索、この事件をきっかけに土井晩翠が霊界通信
1935	昭和10		林忠次郎(林霊気研究会)が高田はわよを治療 岡田茂吉が世界救世教を立教
		1月	浅野和三部が小林寿子を伴い仙台へ、土井晩翠亡児を降霊
		12月8日	第二次大本事件 このころから霊術が衰退
1937	昭和12		高田はわよがハワイに帰国、霊気療法クリニックを開設 原中もが中村古峽療養所に入院 片桐龍子の皇華聖道会本部を恵那郡武並村(現恵那市)に移転
			福来友吉「生命主義の信仰」 浅野和三部「小桜姫物語」
1938	昭和13		※南アフリカ近海でシーラカンスが捕獲され、恐竜生息説
1940年代			※イギリスでテレパシーを使ったパフォーマンスのピディングトン夫妻が話題に(メンタリズム)
1940	昭和15		林忠次郎が自死、林霊気研究会を智恵夫人が継ぐ 仏生講師らが実利教会を建立 片桐龍子の皇華聖道会が宗教団体に 実利教会を建立 土井晩翠次女信子が没する
1942	昭和17		※ニューヨーク市立大学・ガートルード・シュマイドラーがESPカードによる透視実験(羊・山羊効果sheep-goat effect)
1945	昭和20		福来友吉・土井晩翠らが東北心霊学研究所(仙台)顧問に
		3月	福来友吉が仙台に疎開
		8月～	終戦後、「神々のラッシュアワー」新宗教叢生
1946	昭和21		東北心霊科学研究会結成、顧問に福来友吉、土井晩翠ら 日本心霊科学協会設立
1949	昭和24		心霊科学研究会設立
1950年代			民話運動が盛んに ※デヴィッド・パーグラスが超魔術的パフォーマンスを確立

西暦	和暦	月日	事項 ※日本国外の事項
1950	昭和25		精神衛生法施行
1951	昭和26		福来友吉の戦犯追放解除
1952	昭和27		福来友吉「日本の最も偉大な霊媒 三田光一」をアメリカ誌「サイキック・オブザーバー」に投稿 ※アメリカでアダムスキーがUFOに遭遇する
		3月13日	福来友吉が仙台で没
1954	昭和29	3月2日	棚橋元が平和教を立教
1955	昭和30		このころ福来友吉未亡人からむすび協会を東北心霊科学研究会へ委託・寄付
1956	昭和31		高山市・城山公園に福来博士記念館が開館
1957	昭和32		小林幹「のつち」堤三郎「こつくりさま」(『飛騨春秋』12)、以降「のつち」記事(同13~14)
1960年代			ニューエイジ運動
1960	昭和35		福来心理学研究所(仙台)設立
1961	昭和36		戦後第1次古いブーム(～1962)
1964	昭和39		水木しげる「悪魔くん」が資本用として発表される
1966	昭和41		水木しげる「悪魔くん」が少年マガジンでリメイク、実写テレビ化され、ヒット
		1～7月	テレビ番組「ウルトラQ」放映
		12月14日	実利行者83回忌、御滝本祈願所を設置
1967	昭和42		戦後第2次古いブーム(～1968) 日本催眠医学心理学会で講演「福来友吉の業績について」(東北大学)
		1月	宮崎康平「まぼろしの邪馬台国」、以後、アマチュア研究者による邪馬台国ブーム
1968	昭和43		※作家・佐伯誠一がネス湖探検、レポートが週刊サンデーに掲載される ※エーリッヒ・フォン・デニケン「神々の戦車?」、世界的ベストセラーに
1969	昭和44		デニケン 未来の記憶 超自然への挑戦(『神々の戦車?』(翻訳)、『宇宙考古学』ブーム)
1970	昭和45		このころ、広島県・比婆山に怪物ヒバゴン目撃情報
1970～80年代			古代史 超古代史ブーム 心霊写真ブーム
1970年代後半～			新新宗教
1972	昭和47		ユリ・ゲラーがテレビのワイドショーでスプーン曲げ実演 生体エネルギー研究所設立 国際宗数・超心理学会(IARP)設立
1973	昭和48		コリン・ウォルソン「オカルト」翻訳出版 五島勉「ノストラダムスの大予言」 日本超科学会設立
		7～8月	日本テレビ「あなたの知らない世界」
		12月2日～	つのだじろう「うしろの百太郎」が『週刊少年マガジン』(のち『月刊少年マガジン』)にも同時連載)連載(～1976)
1974	昭和49		映画「エクソシスト」(1973)日本公開
		3月7日	ユリ・ゲラーが「木曜スペシャル」出演のため初来日、スプーン曲げをテレビ実演
		5月23日	朝日新聞社会面に「トリックに動揺 テレビ局」
		5月24日	『週刊朝日』にスプーン曲げトリック暴露
		5月30日	『週刊平凡』にスプーン曲げ疑惑記事
		6月5日	『女性セブン』にスプーン曲げ疑惑記事
		6月15日	『週刊読売』にスプーン曲げ疑惑記事
昭和50年代			こっくりさんが大流行
1970年代後半			高田はわよのReikiが全米に広まる
1975	昭和50	7月22日	実利教会の舍利塔を調査
			この頃、超能力ブーム
1976	昭和51		ドキュメンタリー映画「超常現象の世界」日本公開 サイコメーター、ジュラルド・クワゼット(オランダ)が来日し、水曜スペシャルで行方不明者を透視
		1月	日本PS学会(のち日本サイ科学会)設立
1977	昭和52		この年、県内で民話・伝説集の出版が相次ぐ
1978	昭和53		映画「スターウォーズ」日本公開 映画「未知との遭遇」日本公開
		4月2日	岐阜児童文学研究会が「民話研究のつどい」開催、県内民話の集大成を図る
		12月	岐阜県八百津で口裂け女騒動、その後、全国に波及
1979	昭和54		雑誌「ム」創刊
		6月15日	口裂け女騒動、「やっ和下火」記事
		6月29日	『週刊朝日』に口裂け女記事
		7月～	「あなたの知らない世界」がレギュラー化(～1994)
			この頃、戦後第3次古いブーム この頃、口裂け女が全国で話題になる
1980年代			宣保愛子の霊視がブームに 心霊写真がブームがピーク
1980	昭和55		高田はわよ没
1981	昭和56		高田はわよのReikiを継承したバーバラ・レイがラディアンズ・テクニーク協会を設立
		4月	武並町連合自治会が田中守平慰霊祭を挙行、以後、毎年実施
		6月	財団法人福来心理学研究所(仙台)、むすび協会より財団名称を変更
1982	昭和57		飛騨福来心理学研究所(高山)設立

西暦	和暦	月日	事項 ※日本国外の事項
1983	昭和58		雑誌「トワイライトゾーン」創刊 高田はわよの孫、フィリス・フルモトがレイキ・アライアンス協会を設立
1984	昭和59	2月3日	「金曜ファミリーワイド」でスプーン曲げトリック暴露
			「サンデー毎日」で「大追跡!日本にピラミッドがあった!」キャンペーン(7/1号～1985年3/10号)
1980年代半ば			日本にReikiがインド経由で逆輸入される
1980年代後半			「精神世界」に「ニューサイエンス」ブーム
1986	昭和61		雑誌「ハロウィン」創刊 宣保愛子の霊視がテレビで人気に
1987	昭和62		「丹波哲郎の大霊界」がベストセラーに(1989映画化) 三井三重子がバーバラ・レイ「The Reiki FACTOR」を翻訳、ラディアンズ協会によるレイキセミナーを実施 戦後第4次古いブーム(～1989)
1988	昭和63		奈良県下北山村で第1回ツチノコ探検
1989	昭和64 / 平成1		Mr.マリックの超魔術(ハンドパワー)が流行(木曜スペシャル特番 ～1992) 加子母に楡の子神社ができる 東白川で第1回ツチノコ探検(のち「つちのこフェスタ」)、開村百周年記念行事の一環
		4月	奈良県下北山村にミニ独立国「ツチノコ共和国」建国
		11月	福岡県で集団こっくりさん中毒、週刊誌などで報道される
1990年代			学校の怪談ブーム
1990	平成2		このころ、精神世界ブーム(第3次宗教ブーム)、レイキが日本国内で普及 常光徹「学校の怪談」
1993	平成5		東白川に「つちのこ館」開館
1991	平成3		ポプラ社から「学校の怪談」シリーズ刊行(～1996) 鈴木光司「リング」
		3月17日	NHKスペシャル「立花隆利レポート 臨死体験 人は死ぬ時何を見るのか」
1992	平成4		関口淳インテリキ記事の取材記事(『週刊新潮』) ※アメリカでNIH(国立衛生研究所)にOAM(代替医療局、のちNCCAM)を設置
1993	平成5		※アメリカでテレビドラマ「Xファイル」放映開始(～2002) 角川ホラー文庫創刊
1994	平成6		「Xファイル」ビデオレンタル開始
1995	平成7		「Xファイル」放映開始 映画「学校の怪談」(～1999、第4作まで) 映画「女優霊」
		3月20日	オウム真理教地下鉄サリン事件
		8月	関口淳取材記事(『Views 8月号』)
1997	平成9		映画「CURE/キュア」
1998	平成10		映画「リング」
		2月	フジテレビ「深夜ドキュメンタリー「職業欄はエスパー」
1999	平成11		山口千代子が京都で直伝霊気研究会を設立 映画「リング2」 この頃、オカルトブーム、Jホラー流行
2000年代			この頃、スピリチュアルブーム
2000	平成12		フジテレビ「大東京オカルトツアー 超能力者が挑む怪奇現象の真実!!」 映画「リング0 パースティ」
2002	平成14		映画「呪怨」 映画「ザ・リング」、ハリウッドリメイク版
2003	平成15		映画「呪怨2」
		4～5月	バナウエーブ研究所(白装束集団)がワイドショーで話題に、高山市等を通過
2004	平成16		映画「THE JUON/呪怨」、ハリウッドリメイク版 映画「着信アリ」
2005	平成17		「あなたの知らない世界2005」
2007	平成19		NPO日本レイキ協会設立
2010	平成22		NHK連続テレビ小説「ケゲケの女房」
2011	平成23		「新あなたの知らない世界」
2014	平成26		「妖怪ウォッチ」が子どもたちに大ブーム